The background image is an aerial photograph showing a large area of agricultural land with numerous rectangular fields. Interspersed among the fields are clusters of buildings, likely a town or city. The terrain is relatively flat.

草津川改修事業に伴う

# 埋蔵文化財発掘調査概報

—— 御倉・北萱地区 ——

1986・3

滋賀県教育委員会

滋賀県文化財保護協会

草津川改修事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査概報

—— 御倉・北萱地区 ——

1986・3

滋賀県教育委員会  
(財)滋賀県文化財保護協会

## 序

滋賀県教育委員会では活力のある県民社会、生きがいのある生活を築くための一つとして、文化環境づくりにとりくんでいます。埋蔵文化財の保存と活用は、文化財行政の中でも重要な課題であります。

埋蔵文化財は、私達の先祖が遺してくれた貴重な財産であり、日々の生活に欠くことのできない安らぎを与えてくれるものであります。この財産を後の世に引き継いでいくためには、広く県民の方々の御理解と御協力を賜わらなければなりません。

ここに草津川改修事業に伴う草津川関連遺跡北萱地区の事前発掘調査の概要報告を取りまとめましたので、御高覧の上、今後の埋蔵文化財保護の御理解に役立てて戴ければ幸いです。

最後に、発掘調査の円滑な実施に御理解と御協力を戴きました地方の方々、並びに関係機関に対して、厚く感謝の意を表します。

昭和61年3月

滋賀県教育委員会

教育長 南 光 雄

## 例　　言

1. 本書は県土木部の実施する草津川改修事業に伴う、草津市矢橋町所在、草津川関連遺跡北萱地区的発掘調査概要報告書で、昭和60年度に発掘調査し、当年度に整理したものである。
2. 本調査は県土木部からの依頼により、滋賀県教育委員会を調査主体とし、財団法人滋賀県文化財保護協会を調査機関として実施した。
3. 発掘調査にあたっては草津市教育委員会の多大な協力を得た。
4. 本書で使用した方位は磁針方位に基づき、高さについては東京湾の平均海面を基準としている。
5. 本事業の事務局は次のとおりである。

滋賀県教育委員会

　文化財保護課長　　市原 浩

　課長補佐　　中正輝彦

　埋蔵文化財係長　　林 博通

　管理係主事　　山本徳樹

財団法人 滋賀県文化財保護協会

　理事長　　南 光雄

　事務局長　　江波弥太郎

　埋蔵文化財課長　　近藤 滋

　埋蔵文化財課調査一係 技師 三宅 弘

　総務課長　　山下 弘

　総務課主事　　松本暢弘

　総務課主事　　立入裕子

6. 本書の執筆・編集は、調査担当者、調査一係技師三宅弘を中心として、岡本隆子(嘱託調査員)、渡辺健彦、東高志が行い、森本敦子、玉村由紀子、河村悦子、山本見子、前田淳、相宮智子、中村加奈女、藤原里佳、横谷裕人、細川光、水谷哲郎、福知義久、山原昭彦、早川佳宏、松本欣也、柴山正弘、堀内睦未、澤田幸、深見千香子、浅香美津子が補佐した。なお執筆者名は文章の末尾に付した。また専門分野において、中川正人(保存科学)、寿福 滋(遺物写真)の参加を得ている。
7. 出土遺物や写真・図面については滋賀県教育委員会で保管している。

## 目 次

I 位置と環境.....	1
II 調査.....	3
調査に至る経過	
調査経過	
III 遺構	
B II トレンチ.....	4
B III トレンチ.....	5
小結	
IV 遺物	
B II トレンチ出土土器.....	6
B III トレンチ出土土器.....	7
小結.....	9
V まとめ.....	10

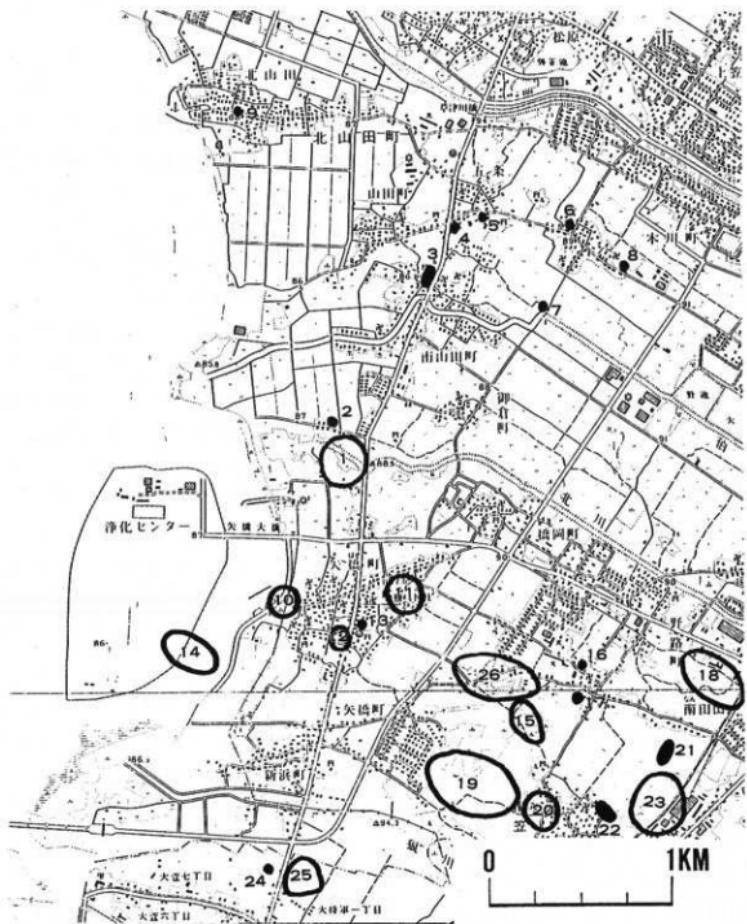
## I 位置と環境

今回の調査地の立地する草津市南西部は、琵琶湖の南東岸に広がるなだらかな沖積低地である。この沖積低地は花崗岩質の金勝山地・古琵琶湖層群と呼ばれる古い地層によって形成される瀬田丘陵に水源を発している伯母川・北川・十津寺川・狼川といった小河川の堆積作用によって形成されたものである。それぞれの小河川は、水源の柔らかい地質の丘陵を浸食し、その土砂を運搬することにより天井川となり、川の両岸には自然堤防が細長く発達している。この自然堤防に挟まれた地域はその勾配が1000分の1~2と小さく、自然のままで排水不良の低湿地が多い。しかしその堆積物は粘土を主体とする微細物質で、土壤も肥沃なため古くから水田として開け、現在も市西部を南北に縱断する浜街道（主要地方道、彦根一近江八幡一大津線）以東には条里的地割跡が広く残っている。しかし草津川を境にして、北部は条里的地割跡が湖岸線付近まで迫っているのに対し、南部においては浜街道以西にも低地が広がっている点から、中世以降にもこれら小河川の堆積作用は続き、湖岸に低地を拡大していったものと思われる。このように草津市南西部の歴史的背景を観るには、それぞれの時期におけるこれら小河川の活動状態を知ることが必須であると考えられる。そこで、以下今回の調査地を取り巻く歴史的背景についてふれてみたい。

草津市南部における先史時代の遺跡は現在において差したるものは発見されていない。草津川以内において、湖成段丘の先端部とほぼ対応する国道一号線を基準として東西に分けてみると、段丘上に位置する観音堂遺跡・野路小野山遺跡・狸山遺跡・湧谷渓遺跡周辺で縄文時代の打製石器が、沖積低地の拡がる西部においては琵琶湖沿岸の北山田湖底遺跡・矢橋湖底遺跡で縄文時代中期の土器がわずかに出土している程度である。弥生時代のものに至っては、市南部にはみるべきものがほとんどない。

しかし古墳時代に入ると、この地区は古墳を中心として大きく開発される。古墳跡は、前期のものとして西部の段丘上に位置する追分遺跡（円墳十数基）があげられ、後期には更に拡大し丘陵上に部田古墳群（円墳1基・他の数基は破壊）、三ツ塚古墳群（全壇・かつて円墳96基が存在していたといわれる）、西部の沖積低地上に五条古墳群（円墳2基）、矢倉古墳群（円墳3基）、南山田古墳群（全壇）、その他広帆な範囲に分布している。しかしこのような古墳跡に対して集落跡は少なく、沖積低地上に西海道遺跡が竪穴住居跡・掘立柱建物跡をわずかに検出している程度で、この時期に至ってもまだ当時の人々の生活舞台とはなりにくかったこの地区的自然的環境を示していると考えられる。しかし、散布地として湖辺の微高地上に御倉遺跡・狭間遺跡・広野遺跡・谷遺跡・丘陵先端部に坊主東遺跡などの存在を考えると、わずかながらも丘陵先端部から沖積低地上の微高地における集落の存在が考えられ、河川の活動と鉄製農耕具の普及等による農耕土木技術の発展の関係がこの時期において急速にこの地を経済基盤として成り立たせつつあったと推測出来る。

次に白鳳期の遺跡としては、沖積低地上に昆沙門堂遺跡・木川遺跡・蓮如堂遺跡・大善寺遺跡等が点在し、丘陵上においては無量寿寺遺跡・西方寺遺跡と、これらすべてが寺院跡である。そのような建造物の拡大に照応して笠山南遺跡のような生産遺跡も現れてくるものであろう。奈良時代になると、かわって丘陵部に大規模な集落と生産遺跡が数多く現れるようになる。集落跡としては丘陵周辺の狸山遺跡・矢倉中畑遺跡・広野遺跡・岡田追分遺跡などに須恵器を中心に遺物が多く検出され、また生産遺跡も丘陵中位から上位に分けて野路小野山遺跡・木瓜原遺跡・湧谷渓遺跡・三池遺跡などから炉跡・炭窯跡等が検出されている。これは当該期において南に臨接する近江国衙の影響、また古代東山道・東海道に隣接する交通の要所として、当地区が経済的



- |          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 1 本遺跡    | 10 矢橋港遺跡  | 19 西海道遺跡 |
| 2 速如堂遺跡  | 11 稲崎神社遺跡 | 20 笠寺遺跡  |
| 3 若松社遺跡  | 12 矢橋城前遺跡 | 21 神差遺跡  |
| 4 山田城遺跡  | 13 大善寺遺跡  | 22 黒土遺跡  |
| 5 五条遺跡   | 14 矢橋湖底遺跡 | 23 広野遺跡  |
| 6 虬沙門堂遺跡 | 15 南笠遺跡   | 24 銅物遺跡  |
| 7 南山田遺跡  | 16 西久保遺跡  | 25 丹後塚遺跡 |
| 8 木川遺跡   | 17 南田山遺跡  | 26 中ノ沢遺跡 |
| 9 長安寺遺跡  | 18 野路岡田遺跡 |          |

遺跡位置図

にも地理的にも重要な地域となったからであると考えられる。

このように当調査地の立地する草津市南西部は、古代からこの形の変動が激しく、特に沖積低地上の河川の活動状況(堆積量、流路等)、汀線の位置など地理的な状態を知ることが、それぞれの時期の社会を正確に観るために必須であると思われる。(東 高志)

## II 調 査

### 調査に至る経過

新草津川改修事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は昭和57年11月から当該地を試掘調査することで始められた。翌年からは遺構・遺物等が認められ、調査が必要と判断された地域について発掘調査が行われている。本書は、その地域内の調査のうち、昭和60年度に発掘調査が終了した地域の概要報告書である。

### 調査経過

当地域は北川の下流域が浜街道を横切った所から下流側へ約2~300m進んだ所にトレーンチを設定した。地区割りは、浜街道より西側の地区で便宜上、北川の右岸をA地区、左岸をB地区とし、本年度のトレーンチはB地区に設けられている。



B III トレーンチ作業風景

西側のB II トレンチは東西54m×南北40m~57mの台形でバックホーにより約2m掘り下げたところで遺物を多量に含む層が検出された。以降は人力により精査した。

東側のB III トレンチは東西14m×南北84mの長方形トレンチで、バックホーにより約2m掘り下げた所で褐色砂層を包含する旧河道2が検出された。以降は人力により精査し、表土から2.5m下がったところで暗褐色粘土を包含する旧河道1が検出された。(三宅 弘)

### III 遺構

調査地は海拔86m前後を測る北川の左岸に位置する。天井川化している北川を除けば、東から西へわずかに傾斜する低平な地形を呈し、トレンチはその氾濫原に設けられた。

#### B II トレンチ

浜街道から西へ約300~350m離れた所に設定された。バックホーによる掘削が約2mに及んだところで古墳時代を中心とする遺物包含層が確認された。基本的な層位はこの包含層を狭んで上下に各1層の、3層からなり、上層は淡褐色砂層と淡青灰色粘土層が交互に重なり合う層位を呈し、非常に危弱である。上層からはほとんど遺物が検出されなかった。

中層は厚さ0.5~0.7mを測り、淡青灰褐色砂に1cm以下の小礫が混入しているものである。この層からは、明確な遺構は確認されなかったが、遺物は多量に出土している。遺物の時代幅は縄文時代から鎌倉時代に及んでいるが、古墳時代中期頃のものがその中心を占め、須恵器などは完形で出土したものも多い。

下層は、暗茶褐色粘土に木質を多量に含んだスクモ層が30~40cm堆積しほぼ水平な海拔83mを測る面であるが、西端で少し角度を変えてゆるやかに下っている。

#### B III トレンチ

B II トレンチから東へ約80mの所に設定されている。B II トレンチ同様、淡褐色砂層と淡青灰色粘土層がサンドイッチ状に何層も堆積した上層部分を取り除くと、表土から約2m下った所に遺構面が現れた。

#### 旧河道2

暗青灰褐色粘土層を切り込んで西流する形状を呈し、幅13.5m、深さ1.7mの断面U字形を呈する。細長いトレンチを横断する形で検出されたため、全長は不明である。淡褐色砂礫層の覆土中より、5~6世紀を中心とした多量の遺物が出土した。その多くは上流から運ばれてきたものと思われ、摩滅している。遺物の時代幅は縄文時代前期から鎌倉時代に及ぶ。中でも石鏡・小玉・管玉等の石器類が多量に発見されたことは特筆される。

#### 旧河道1

旧河道2の下層から、同じく西へ流れる形状を呈して検出された。全長は不明であるが、北岸を共有し、幅23m、深さ1mではほぼ倍の幅をもち、断面U字形を呈する。灰色~暗灰色粘土のベースを切り込んでおり、暗青灰褐色粘土で覆われていた。旧河道1の底面中央付近に、縦に打ち込んだ杭列に横木を何本か通した形の遺

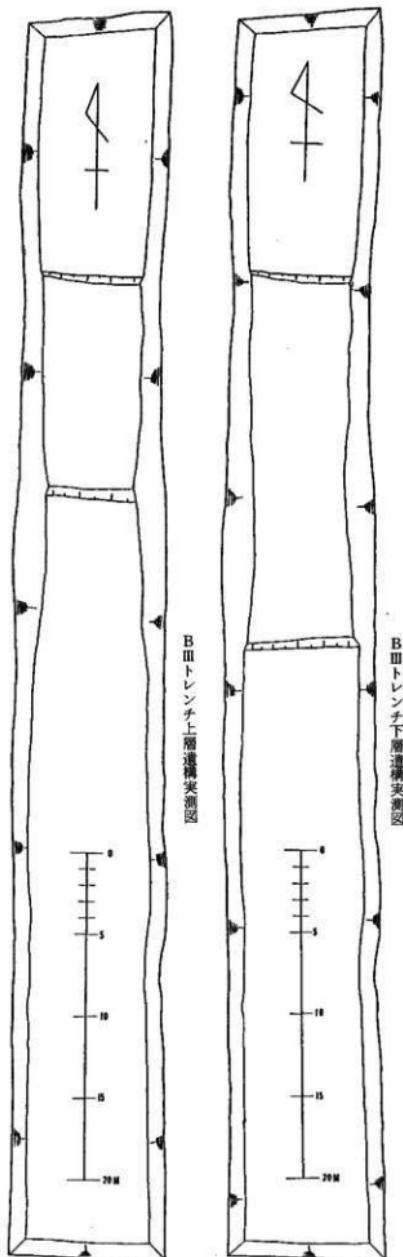
構が発見された。この遺構は河川の流れに添う形にならんであり、東端は今回調査外であるが、長さは2m分が検出され、高さは河底から最高1.2mを測る。この杭列は6～7本の縦杭に2、3本の横木を組み合わせたものである。各杭は長さ約1.5m、直径5cmのもので先端を鋭利な刃物で削り、尖らせていた。旧河道2と異なり、かなりゆるやかな流れをしていたと考えられ、土器の摩滅度も低く、木製遺物を多量に包含していた。

遺物は旧河道2が古墳時代を中心として縄文～鎌倉時代のものまで含んでいるのに対して、弥生～古墳時代の土器が含まれていた。木製遺物には、ナスピ形鋸・長柄形鋸などの農具や堅杵・梯子・ミニチュアの舟など様々なものが出土している。

### 小 結

BII・BIIIトレンチともに表土から約2m掘り下げられた面までは、砂層と粘土層がサンドイッチ状に堆積した土層であった。その断面は非常にもろく、作業に困難を極めた。2mに及ぶ砂と粘土の堆積は、現在も天井川化している北川の氾濫のすごさを物語っている。旧河道1・2は、かつての北川の流路であろうと思われる。

(三宅 弘)



## IV 遺 物

B II・B IIIトレンチともに多量の遺物が出土している。土器は縄文時代～鎌倉時代に及び、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・瓦器・磁器などが見られる。木器は農具が多く、他にミニチュアの船などの祭祀用具がある。石器には石鏃などの狩猟具、管玉・小玉などの装飾具などが出土している。土製品ではミニチュアの壺や土錘が見られた。

尚、今回の報告では土器のみを図示した。

### B II トレンチ出土土器

縄文時代～鎌倉時代の土器が包含層から出土している。

#### 縄文土器

晩期滋賀里式の壺（1）を図示し得たのみであったが、他にも小片が少数出土している。

#### 弥生土器

前期の壺（7）は端部に刻み目をもち、体部との境に二条のヘラ描き沈線を施すものである。

中期では端部付近に水平な面をもつ高杯（2）が出土している。端部に刻み目、水平面に細かな櫛描き波状文を施している。壺では、端部に刻み目をもつ小型のもの（3）や大型のもの（10・11）、受け口状に内傾させるもの（9）、口縁が「く」の字状に外反するもの（4）などが見られる。

後期は全て受け口状口縁をもつ壺（5・6・8）である。ともに頸に刺突列点文が施されている。

#### 土師器

大きく分けて古墳時代のものと平安～鎌倉時代のものとがある。

古墳時代の土器は、杯・高杯・壺・壺・器台・瓶などである。

杯には口縁部が内窪し、端部付近で少し外反するもの（25・26・28・29）とそのままのびて内傾する端面をもつもの（27・30）、さらに屈折して2段階に外方へのびるもの（31・32）がある。27・28以外はいずれも薄手の精製品である。

高杯は、杯部が小型で底部から内窪しつつ端部に至るもの（35～39・41）と大型で口縁部の途中で大きく外反するもの（40・42～45）に大別される。前者は口径12～15cm、後者は15～22cmを測る。脚部は、ラッパ状にのびる柱状部が裾で大きく開くもの（46・47・49・50）と杯底部から大きく外反するもの（48）に分かれる。前者は柱状部内面にヘラケズリを施しており、46は外面を面取りしている。後者は全面にハケ目が施されている。

器台（78）は浅く内窪する受け部の内側全体に縦方向のヘラミガキが施されている。脚部は欠失しているが、尚杯形を呈する器形であろうと思われる。

壺は大きく外反する口縁部が外側で段を形成してさらに大きく外反するもの（51～53）と、真っすぐに外へ開く口縁をもち球形の体部のほぼ中位に一孔を穿つ鉢と呼ばれる器形のもの（54）がある。前者には頸部にヘ

ラケズリを施し、口縁部内面をヘラミガキするもの(51)と、甘く段を作り、端部に平面をもつもの(52)、さらに口縁部が鹿角状を呈するがごとく見えるもの(53)などバラエティーに富んでいる。

概(55)は直立する口縁をもち、端部は水平な面をもつ。全面に斜めのハケ目が施される。

壺には受け口状口縁をもつもの(56・75~77)と「く」の字状に外反するもの(57~74)に分けられる。前者には56のように東海系かと思われるものがある。後者は口縁部が真っすぐのびるもの(57・70・71・73)、内弯するもの(58~61・65・68・74)、外反するもの(62~64・66・67・69・72)に分けられる。口縁部の短かいものが大半を占めるが、68~74のように大きくのびる口縁をもつものも存在する。

平安~鎌倉時代の土器は、皿と椀の2種類がある。皿は口径9cm以下のもの(12~14)と口径11~13cmの中型品(15~21)、口径15~16cmの大型品(22~24)

に分けられる。

椀(33・34)は、ともに平らな底部に三角形の高台の付くもので、浅い杯形の器形を呈している。

#### 須恵器

杯蓋(79~85)は5世紀~6世紀前半のもの(79~83)と6世紀後半のもの(84・85)に分けられる。

杯身(86・87)。86は高台をもたないタイプ、87はもつものである。

高杯(88~90)。88は有蓋高杯、89・90は無蓋のもので、後者は口縁に1~2条の突線をめぐらせて、その下に波状文を施している。

壺(91)は大きく外反する口縁の中央に、上下を突線で狭まれた波状文の文様帯をもつ。

#### 黒色土器

全て内黒の椀である(93~95)。

#### 磁器

削り出しの輪高台をもつもの(92)で、高台と見込み以外は施釉されている。

#### B III トレンチ出土土器

縄文時代~鎌倉時代の土器が旧河道1・2から出土しているが、旧河道2からの出土が多数



B III トレンチ全景

を占める。

#### 旧河道 1

##### 弥生土器

中期の壺（201～203）と後期の壺（204）・甕（205）が出土している。203と205は近江型の壺である。

##### 土師器

高杯（206）は杯部が椀形を呈する。

壺（207）は大きく開く口縁に三角形の突帯が貼り付く。

甕（208・209）はいずれも口縁が外反するもので、前者は「く」の字状に屈折している。

器台（210・211）どちらも端部を垂下させるもので、（211）は外端面に2本の凹線文を施す。いずれも古墳時代のものである。

#### 旧河道 2

縄文土器212は前期の北白川下層II b式のもので、半載竹管による刺突文が施されている。213は後期末の宮窪式に相当し、貝殻による沈線文がみられる。214・215は晩期末の滋賀里式のもので、貝殻条痕がみられる。

##### 弥生土器

壺（216）は大きく開く口縁の端面を、上下から指で狭んで波形を作るものである。

甕（217～220）口縁が大きく外反するもので、219・220には波状文が施される。いずれも中期の土器であろう。

壺（221）直立する長い頸部をもつ壺である。

甕（222）底部のみの破片である。外面はハケ目調整を施し、底部に1孔を穿つ。

甕（223～226）いずれも受け口状口縁をもつ土器で、頸下半に刺突列点文を施す。以上は後期のものと考えられる。

##### 土師器

杯は、口縁が大きく開くもの（227・228）と内弯するもの（229）に分けられる。

高杯、杯部だけのものでは、口縁部が内弯するもの（230）、外反するもの（231・234・235）、まっすぐのびるものの（232・233・236・237）がある。前二者に比べて後者は大形である。脚部の破片（238～241）では、円筒形にのびる柱状部が掘で八の字状に大きく開くものである。

器台（242）はまっすぐのびた柱状部から大きくハの字状に開く脚部をもつ。

壺、243～248は小型丸底壺である。247は外面に、248は内面にヘラケズリを施している。243は口縁部が2段に開く形態を呈する。249は大きく開く口縁の外側に三角形の突帯をもつ。250は球形の体部をもつ直口の壺であろう。

甕（251）小型丸底壺の体部に一孔を穿つもので、外面をヘラケズリ調整する。

甕、252～255は受け口状口縁をもつもので、頸に施される刺突列点文は省略されている。256～263は口縁が

「く」の字状に外反するもので、256～261は小型壺、262・263は長胴のものであろう。

以上は古墳時代のものと思われる。

皿(264)は内弯する口縁が端部付近で外反し、内に巻き込む形態を呈する。内面に一段の放射状暗文が施される。

杯(265・266)ともに内弯する口縁部を有するが、前者は内外にヘラミガキを施す。

以上は奈良時代の土器である。

皿 口径10～13.5cmのもの(267～285)と16cm前後のものも(286・287)に分けられる。前者はさらに口縁が内弯するもの(267・268・270・273・275・276・278・283・284)、まっすぐのびるもの(269・271・274・281・282)、外反するもの(272・277・279・280・285)に区分される。

杯 口径が10～12cmのもの(288～290)と13cm以上のもの(291～293)に分けられる。293の口縁上半が外反する以外は、全て内弯する口縁部を有する。

榠 294～297・299は三角形の高台をもち、浅い杯形を呈する。298は深い器形でしっかりした高台を有する。

#### 灰釉陶器

榠(300～309)口縁は内弯気味にのび、端部で少し外反するものもある(302)。高台は三日月形を呈するもの(300・303・304)まっすぐに長くのびるもの(305～309)に分けられる。

壺(310～312)平底のもの(310)、高台が付けられるもの(311・312)がある。

#### 綠釉陶器

榠(313～326)口縁は内弯気味にのび、端部で少し外反する。高台は内側に段をもつもの(316・317・319・321・322)とすなおに取めるものがある。

#### 黒色土器

榠を3点図示した。327・328は内面に密なヘラミガキ、329は内面に花弁状暗文を施す。

#### 瓦 器

全て榠形態である。口径12～17cmを測る。ヘラミガキは、内面のみのもの(330・334)と両面に施されるものがある。高台は、共に退化した低いものである。

#### 小 結

今回の調査では繩文～鎌倉時代の遺物が出土した。それらは古墳時代を中心とする一群と、平安～鎌倉時代を中心とする一群に分けることができる。また他の時代の遺物も、出土量は少ないが跡切れることなく見られる。特に旧河道2の土器は著しい摩滅を受けており、上流域に各時期の遺跡の広がりが予想される。

(三宅 弘)

## V まとめ

本遺跡は、北川の氾濫原に位置する。設定された2ヶ所のトレンチからは、約2mにわたる砂と微細な粘土の堆積が認められた。ほとんど遺物を含まないこの層は、鎌倉時代以降の度重なる北川の猛威を物語っていると言えよう。また、B II トレンチ中層出土の各時期にわたる土器群や、B III トレンチ旧河道2に見られる土器の摩滅の著しさなどは、鎌倉時代以前の北川の氾濫の様子を表わしている。

トレンチ内から検出された2条の旧河道は、地形から見て現在の北川とほぼ同じところに流れていたものと考えられる。上流域にある遺跡のうち、本遺跡で多量に出土している古墳時代と平安～鎌倉時代に相当する遺跡は、野路岡田遺跡（平安～鎌倉時代）の他、矢倉遺跡、西久保遺跡（いずれも古墳時代）であるが、それらも現在の北川から少し離れている。しかも、いずれも本遺跡よりはるか上流部分に立地し、国鉄東海道線より下流部分では全く見られない。以上の諸条件を組み合わせてみると、本遺跡出土の多量の遺物は、現在の国鉄東海道線より下流部分に少なくとも古墳時代と平安～鎌倉時代の遺跡が存在する可能性を残している。また、出土した土器は、壺、甕などが多く見られる。その可能性を秘めている場所は、子守神社周辺の微高地に求められるのではないだろうか。

B II トレンチ西端に見られる暗茶褐色粘土層の緩斜面は、出土した土器より、縄文時代晩期の汀線ではないかと思われる。良好に煤の付着した縄文土器に比べ、その上層から出土した他の土器群には、摩滅の著しいものが認められた。また、暗茶褐色粘土層には多くの木質を含んでおり、あたかも水面下に沈殿した木の葉やヨシなどがそのまま堆積したことを見ている。これらのこととは、当時この地が水際であったことを物語っている。

守山市から草津市にかけての琵琶湖岸には、烏丸崎遺跡、志那湖底遺跡、北山田湖底遺跡、矢橋湖底遺跡など、湖底遺跡が立地しているが、それらの多くは縄文時代の遺物を包含している。矢橋湖底遺跡の発掘調査では、北川の河口付近から縄文中期を中心とする遺物が少量発見された。本遺跡出土の縄文時代の遺物は、各時期に及んでおり、それらが運ばれて湖底へ堆積したと考えることは容易であろう。これらの、運ばれるべき土器を所有していた集団もまた、その周辺に居住していたことは明らかである。（三宅 弘）

B II トレンチ出土遺物観察表

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
鍋文 甕	1	口縁は外反気味に外へ開く、外面端部下に1条の刻目、通常、端部に刻目を施す。	貝がら調整は行われず、ナデのみの調整。	胎土：石英、長石、ウンモ、他、砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：暗茶褐色
高杯	2	口縁は内湾気味に上にのび内面で段をもち、大きく外反し3cm程の幅の内傾する面をもつ。端面は垂直気味により、下に少しつまむ。	端面上、ヨコナデのあとが一部あり、あとマツツ。端面下、刻み目文、内傾している端部は波状文。口縁外面、ななめと横のハケメがまざる。口縁内面一部ハケメ、あとマツツ。	胎土：砂粒を含む 焼成：やや軟質 色調：淡乳褐色
	3	体部の下半欠損。直立気味の体部から口縁が外上方へ外反してのび、端部は丸くおさめる。	体部外面は縱ハケ、口縁端部に刻み目あり。内面ヨコナデ。	胎土：0.5～2mm位の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色
	4	体部下半欠損。体部はゆるく内湾し、頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁が外反する。端部は上下につまみ出されため、外傾する凸面ができる。	内面頸部より口縁、端面はヨコナデ、内面頸部以下、ヨコハケと下から上へのタテハケ。外面タテハケのあと、頸部よりやや下に4本の荒いくじ目をめぐらす。	胎土：1～3mm位の長石、石英、砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：淡乳褐色
甕 甌	5	口縁部は屈曲外反し、顎を形成してまっすぐ立ち上がる。端部は内傾する水平な面をもつ。	外面の顎の部分に3コ1組の櫛摘刺突列点文。他ヨコナデ。	胎土：1～2mm位の石英、長石、砂粒を含む 焼成：乳灰褐色（鉄分付着のため一部茶褐色）
	6	口縁部のみ残存。体部より口縁部が外反屈曲し、顎を形成してまっすぐ上へのびる。端部は内傾する平面である。	外面口縁部は右上りの刺突列点文が施されている。他はヨコナデ。	胎土：0.2～1.5mm位の長石、石英、黒色砂粒等の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色
	7	口縁は大きく外反し、端部は上につまみあげ、丸くおさめる。	口縁外面、ヨコナデのあと、端部付近に不規則な刻み目。頸部に二条の沈線を施す。内面ヨコナデと思われるがマツツ。	胎土：1～2mm位の長石、石英を含む 焼成：やや軟質 色調：乳灰褐色（外面、乳赤褐色）
甌 生	8	口縁部のみ残存。体部より口縁部が外反屈曲し、顎を形成してまっすぐ上へのびる。端部はゆるい凹面を有して内傾する平面である。	外面口縁部は右上りの刺突列点文を施している。頸部は斜めのハケ目でマツツしている。他はヨコナデ。	胎土：0.2～1mm位の石英、長石、黒色砂粒等を含む 焼成：やや硬質 色調：内面淡灰褐色、外面暗灰褐色（ススキ付着）
	9	口縁部のみ。口縁部は外反して顎をもち上内方につまみ上げ端部はやや内傾する面をもつ。	口縁内面ヨコのハケ調整。内面端部付近より外面ナメハケ調整らしいがマツツのため不明顯に不規則な刻み目を施す。頸部はマツツ。	胎土：0.5mm位の石英、長石を多く含む 焼成：やや軟質 色調：乳灰褐色
	10	ほぼ直立する体部より口縁は大きく外反し端部を上下につまみ出しやや内傾する凸面をつくる。	内面横方向のハケ目調整。外邊面頸部にハケ目を施すらしいがマツツのため不明。	胎土：0.5～1.5mm位の石英、長石、砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色
	11	頸部はほぼ垂直に立ちあがり口縁は大きく外反し端部手前でやや内寄りさせ、外傾する端面を有する。	内面、ヨコのハケ目 外面、頸部に4条の沈線を施す。立ちあがりタチのハケ目、口縁上部ナメハケ、端面に不規則な刻み目。	胎土：1～2mm位の石英、長石を多く含む 焼成：やや軟質 色調：乳灰褐色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
土 師 皿 器	12	底部はほぼ平坦で、内窓気味に口縁部が続き、外へ開き、端部は上に少しつまみ出す感じ。	内面はナデ。底部外面は未調整、口縁外面はヨコナデ。	胎土：0.5～2mm位の石英を少し含む 焼成：やや硬質 色調：淡褐色(内面、鉄分付着)
	13	底部はほぼ平坦。口縁は底部とあまり境がなく、内窓しつつ上へのびている。	内面はナデをし、その最後を、ハネ上げている。外面底部に指圧痕がある。	胎土：0.1～0.3mm位の黒色砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色
	14	底部はほぼ平坦で、内窓気味に口縁に続く。口縁は少し外に開きながら伸びる。端部は丸くおさめてある。	底部外面は未調整で指圧痕が残っている。口縁部外面はヨコナデ、底部内面はマメツ。	胎土：0.5mm位の石英、長石、くさり砾を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色
	15	底部外面中央に凹面を有する。口縁は内窓気味に外方へ広がり、端部は丸くおさめる。	内外面ともヨコナデ。底部外面は未調整、底部内面はマメツ。	胎土：2mm程度の黒色砂粒を二ヶ所、3～4mm程度の長石を一ヶ所含む 焼成：硬質 色調：乳茶褐色
	16	底部はほぼ平坦で、内窓気味に口縁部が続き、外へ開きながらまっすぐ伸びる。端部は丸くおさめる。外面底部に粘土のつぎめ跡がみられる。	底部外面は未調整、他はヨコナデ。	胎土：微細なくさり砾、その他、ほんの少し砂粒を含むがほとんど精良 焼成：やや硬質 色調：内面 淡赤褐色 外面 淡褐色
	17	口縁部は内窓しながら外へ開くように伸びる。端部は丸くおさめる。	ヨコナデ、全面施釉。	胎土：密、白色微砂粒を含む 焼成：良好・堅緻 色調：白灰色
	18	底部はほぼ平坦で、口縁部が内窓気味に立ち上り、外に開くよう伸びる。端部は丸くおさめる。底部と口縁部の外面の境目より口縁部によりゆるい段をもつ。	底部外面は未調整、他はヨコナデ。	胎土：0.5mmの黒色砂粒、長石、石英を少し含む 焼成：やや硬質 色調：黄褐色
	19	底部はほぼ平坦。口縁は少し肥厚して上にのび外に開く。端部は丸くおさめる。	底部は未調整。内外面共ヨコナデ。外面上は強いナデのため段がある。	胎土：0.1～0.2mmの石英と0.2mm～0.5mmの黒色砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：灰褐色
	20	底部はほぼ平坦で口縁に向かって内窓しており、口縁端部はやや斜め上につまみ出している。	内外面共ヨコナデ、外面底部は未調整である。	胎土：1mm位の長石を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳赤褐色
	21	底部はほぼ平坦。口縁部は内窓気味に立ち上がり、端部は少し外につまみ出している。	底部外面未調整、他はヨコナデ。	胎土：良好、内面黒砂粒、長石(0.2mm)を少し含む 焼成：硬質 色調：乳灰褐色、内面半分程黒色、内面は <sub>1</sub> 程鉄分付着
	22	底部はほぼ平坦。口縁は内窓気味に立ちあがり端部は内傾する平面をもつ。	内外面とも口縁部はヨコナデ。外面底部は未調整。内面底部はマメツ。	胎土：精良 焼成：やや硬質 色調：淡茶褐色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
皿	23	ほぼ平坦な底部から内弯気味に口縁部が続き、やや開き気味に伸びる。端部は丸くおさめる。	内面は不整方向のナデ。口縁部内面はヨコナデ。底部外面は未調整(底部外面に土器を置いた時にいたと思われる2~3mmの砂粒が多くついている)	胎土：1~2mm位の石英を含む。微細な長石もほんの少し含む 焼成：やや硬質 色調：明黄褐色
	24	底部はいびつな凹凸があり、端で持ち上っている。口縁は内弯気味に立ち上がり端に水平面をもつ。	口縁部ヨコナデ。外面底部、未調整。内面底部はマツツのため不明。内面に指圧痕をこす。	胎土：0.5~1mm大の長石、小石を含む 焼成：硬質 色調：乳白色
	25	口縁部は底部より内弯しながら立ち上がり、途中で「く」の字状に屈曲して外へ開き気味に短くのびる。端部は丸くおさめる。	内外面共にヨコナデ。	胎土：良好 焼成：やや軟質 色調：赤褐色
	26	口縁は内弯しながら上にのび外反している。端部は丸くおさめる。	口縁内面ヨコナデ。端部付近内外面共ヨコナデ。口縁外面マツツ。	胎土：砂粒を少し含む 焼成：やや軟質 色調：乳褐色
	27	口縁は内弯気味に上にのび、内傾する平面をもつ。端部はつまみ、丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ、外面に少し凸を生じる。	胎土：砂を含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色
	28	体部は底部より内弯しながら立ち上り「く」の字状に屈曲して、外に短く開く。端部は丸くおさめる。	外面底部乱ナデ、他はヨコナデ。	胎土：0.5~1mm位の長石、石英を少し含む 焼成：やや軟質 色調：乳赤褐色
	29	口縁は内弯しながら上にむかい、端部付近で強く外反している。端部は丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ。	胎土：0.1mm位の石英と微砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳淡褐色
杯	30	口縁は内弯しながら上へのびている。口縁上面に強いナデのため段を有する。	内面上部ヨコナデ、あとは未調整。	胎土：砂を多く含む 焼成：やや軟質 色調：乳灰色
	31	口縁は少し内弯気味に外に開く。外面に強いナデのため段を有する。端部は上方につまみ、丸くおさめる。	内外面共ヨコナデと思われるが、マツツしている。	胎土：0.1mm位の石英と微砂粒を含む 焼成：やや軟質 色調：乳褐色
	32	口縁は内弯気味に上にのびている。口縁上部は2段に屈曲しながら外に開く。端部はつまみ出し、丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ。	胎土：赤色微砂粒と0.1mm位の石英を含む(精緻) 焼成：やや軟質 色調：乳褐色
碗	33	中央がやや下がる平ら底部の外周からかなり内側に断面台形の高台が外ふんぱりに平面を接地させて貼り付く。口縁は内弯気味に伸び、端部は丸くおさめる。	ヨコナデ、外底面(高台内)は未調整。	胎土：0.5mm以下の石英、長石は若干含む 焼成：やや硬質 色調：明乳赤褐色
	34	口縁部は内弯気味に立ち上がり、端部は丸くおさめる。底部外端に高台がつぐが端部が欠損している。底部はほぼ平坦。口縁部外面は強いナデのため、ゆるい段をもつ。	底部内外面はマツツ、他はヨコナデ。	胎土：3mm位の黒砂粒1ヶ、0.5mm位の長石を少し含む 焼成：やや硬質 色調：赤褐色(ほとんど全面、鉄分付着)

器形	上番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
土師杯	35	杯部のみ脚部欠損。底部から内窵して口縁が立ち上り、端部は丸くおさめる。	全面ヨコナデ。	胎土：良好 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色
	36	杯部のみ脚部欠損。ほぼ平坦な底部より内窵して口縁が立ち上り、端部は内傾する面を有して丸くおさめる。	内面は横、斜めハケ。口縁端部と外側はヨコナデ。	胎土：微細～1.5mm位の長石、その他の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：乳赤褐色
	37	丸味を帯びた底部から内窵気味に口縁部が続き、上に伸びる。外面の口縁部と底部の境目に、浅い凹んだ帯を有する。	内面ヨコナデ、粘土のつぎ目と思われる線を有する。外面ヨコナデ。	胎土：0.5～2mm位のくさり砾を多く含む、他に0.5mm以下の長石を少し含む 焼成：やや軟質 色調：内面 淡赤褐色 外面 淡褐色
	38	杯部のみ残存。厚味のある底部より内窵して口縁から立ち上がる。端部は丸くおさめる。	全面ヨコナデ、外面底部はヘラケズリか？	胎土：微細～1mm位の長石黒色砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：褐色（鉄分付着のため） 素地は乳褐色
	39	ほぼ平坦な底部から内窵気味に口縁部が続き、まっすぐ上に口縁が伸びる。端部は丸くおさめる。底部と口縁部の境目に段を有する。	底部内外面未調整、口縁部ヨコナデ。	胎土：1～2mm位の石英、長石、その他の砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：明赤褐色
	40	底部より内窵気味に立ち上り、口縁附近で外反している。端部は丸くおさめる。	全面ヨコナデ。	胎土：微細～2mm位の長石、その他の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色
	41	杯部のみ残存。底部から内窵気味に立ち上り、口縁端部は丸くおさめる。外面の底部と口縁部の境目に段を有する。	外面底部未調整、他はヨコナデ。	胎土：0.5～1mm位の石英、長石を少し含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色
	42	底部からやや内窵気味に口縁部が立ち上がり、外に開きながら伸びる。端部は少し上につまみ出し、丸くおさめる。	内面はヨコナデ。外面口縁部はマツツ。底部は未調整。口縁部中央付近に粘土のつぎ目らしい浅く凹んだ筋がある。	胎土：0.5～1mm位の石英、長石を含む 焼成：硬質 色調：茶褐色（内面鉄分付着）
	43	ほぼ平坦な底部から内窵気味に口縁部が続き、端部は少し肥厚して丸くおさめる。口縁部内面に粘土のつぎめが見られる。	内面口縁部はヨコナデ、他はマツツ。外面底部と口縁部の境目付近は剝離がはげしい。	胎土：0.5～1mm位の長石、石英、他砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：外面 淡黄褐色 内面 淡赤褐色
	44	脚部欠損。底部から内窵気味に口縁が続き、やや外に開きながら伸びる。端部は丸くおさめる。	内面はナデ。外面はタテハケがあつたと思われるが、ほとんどマツツしている。	胎土：0.5～2mm位の石英や長石を多く含む 焼成：硬質 色調：淡乳褐色
	45	底部から内窵気味に口縁部が続き、外に大きく開きながら伸びる。端部は少しつまみ出している。底部と口縁部の境目に段を有する。	マツツのためほとんど不明。	胎土：0.5mm位の石英、長石を含む 焼成：やや軟質 色調：淡赤褐色（ほとんど鉄分付着）

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
高	46	脚部のみ残存。脚柱部はラッパ状に開き、端部は少し面を残し気味に丸い。	脚柱部の外面と内面はヘラケズリ。裾の外面は縦にハケ目、他はヨコナデ。	胎土：微細～0.5mm位の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色
	47	脚部のみで杯部は欠損。脚柱部は開き気味の円筒形で裾で大きく広がる。端部は丸くおさめる。	外面はヨコナデ。内面は脚柱部がヘラケズリ、裾部は横ハケ。	胎土：良好 焼成：軟質 色調：乳赤褐色
	48	脚部のみ杯部欠損。比較的短めの脚柱部よりラッパ状に裾部が開き、端部はつまみ上げ、内傾してゆるい凹面を有する。全体的に厚めである。	外面は縦ハケ、他はヨコナデ。	胎土：0.2～1.5mm位の砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色
土 杯	49	脚部はラッパ状に開き、裾でほぼ水平になる。すかし孔はない。端部は肥厚している。杯部との接合部分が残っているので成形過程がわかる。	脚柱部内面はヘラケズリで下の方は花弁状のヘラケズリを施す。他は摩滅しているため不明。	胎土：1mm位の長石、石英と2mm位の雲母を含む 焼成：やや軟質 色調：淡乳黄褐色（内、外面共鉄分沈殿による赤褐色）
	50	脚部のみ残存。杯部は欠損。脚柱部はやや開き気味の円筒形で裾で大きく広がる。端部はほぼ垂直に下っている。	脚柱部内面ヘラケズリ、他はヨコナデ。	胎土：微細～1mm位の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：淡灰褐色
師 壺	51	口縁のみ残存。口縁部はラッパ状に外上方にのび、大きく外反し、先端は丸くおさめる。口縁の外側の位置に三角形の突帯がめぐる。	外面ヨコナデ、内面ヨコのヘラミガキ、下半はヨコのヘラケズリ。	胎土：1mm位の長石、石英、砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：淡灰褐色
	52	頸部はほぼ垂直に立ち上がり「く」の字状に屈曲して斜めに開き擬口縁をつくる。さらに粘土をもりあげ、もう一度外反して口縁をつくる。端部はすこしつまみ上げ、外傾する平面をつくる。	内外面ともにヨコナデ。	胎土：1～2mm位の石英、長石と微砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色（一部赤褐色）
	53	口頸部のみ残存。頸部から外反し、口縁状のものをつくり、その端部より内側に再び外反する口縁を貼り付けている。端部は丸くおさめる。口縁状のものの先端は断面三角形の凸帯状のものを量する。	全面ナデ調整	胎土：0.5～1mm位の砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：暗灰褐色
器 甕	54	やや扁平な球形を呈する体底部から「く」の字状に屈曲する口縁が続く。口縁はまっすぐに外に開き、先端は丸い。体部最大径は中位にあり、そこに円孔を一つ穿っている。	体底部内面は未調整、他はマツツで不明。	胎土：1mm位の石英、長石等砂粒を多量に含む 焼成：軟質 色調：淡褐色（一面に鉄分付着し、茶褐色を帯びる）
曾 瓦	55	口縁は直立して端部はゆるい凹面を有する、ほぼ水平な面である。	口縁端部はヨコナデ。体部内外面共ハケ目。	胎土：微細～2mm位の長石、黒色砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：茶褐色（内面口縁付近にスス付着）
甕	56	頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は短く外反して立ちあがり、端部をわずかにつまみ出し、先は丸い。	口縁内外面共にヨコナデ。体部外面ナメハケ調整の上から2段にヘラ描き直線義。	胎土：2mm位の長石2、3ヶと微細な長石、石英、砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：乳灰褐色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
土 甌 壺 器	57	頸部は「く」の字状に屈曲し口縁はやや外反氣味に外に開く。口縁は中央を肥厚させ端部は丸くおさめる。	外面口縁ヨコナデ、体部はタテのハケ目。内面口縁ヨコのハケ目、体部は未調整。	胎土：0.5～1mm位の石英、長石、砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：赤褐色
	58	体部より「く」の字状に少し内窓気味に口縁が立ち上がる。端部は丸くおさめる。	体部外面は継ハケ目、他はヨコナデ。	胎土：微細～1mm位の長石、石英、黒色砂粒等を含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色
	59	頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁は中央をやや肥厚させ、内窓気味に外に開く。端部は少し上につまみあげる。	口縁内外面ヨコナデ、外面体部ヨコナデ、内面体部未調整。	胎土：0.5～1mm位の石英、長石、黒色砂粒を含む 焼成：乳灰茶褐色
	60	頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁は内窓気味に開く。端部は上につまみ上げるため、端部下内側に浅く挫線があがる。	口縁内外面ともヨコナデ。体部内面ヨコのハケ目、外面ヨコナデのあとナナメハケ。	胎土：0.5～2mm位の長石、石英、砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：乳灰褐色（外面口縁に一部スヌ付着）
	61	頸部は「く」の字状に屈曲し口縁は中央を肥厚させ内窓して外に開く。端部は外に少しつまみ出し丸くおさめる。	内面口縁ヨコのハケ目、頸部から体部は乱ナデ。外面口縁端部からどうぐらいまでヨコナデ、以下わずかにタテのハケ目、頸部から体部ナナメハケ。	胎土：1～2mm位の石英、長石、砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色（口縁に一部スヌ付着）
	62	体部下半以下欠損。体部は球形を呈し頸部は「く」の字状に開き口縁に至っている。端部は丸くおさめる。	外面の体部は継斜めハケ目、口縁はヨコナデ。内面の体部はヨコナデ（ところどころにヘラケズリあり）、口縁部はヨコハケ。	胎土：微細～0.5mm位の長石、黒色砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色
	63	体部の下半欠損。体部より「く」の字状に口縁が開き端部は丸くおさめる。	外面の体部はタテ、ナナメのハケ目、他はヨコナデ（内面体部にヨコナデの後ヘラケズリあり）。	胎土：0.5～3mm位の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色
	64	体部下半以下欠損。体部は球形を呈し頸部は「く」の字状に外へ開き端部は丸くおさめる。	内面及び口縁内外面はヨコナデ。外面体部の上部以下にハケ目あり。	胎土：0.5～1mm位の長石、石英、黒色砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色、内面と外面部分的に鉄分付着
	65	体部はゆるやかに内窓する。口縁は大きく外反し端部を内に巻き込む。	内面体部はタテ or ナナメのハケ目。体部外面はマツツ。他はヨコナデ。	胎土：1～2mmの石英、長石、雲母等を多く含む 焼成：硬質 色調：淡茶褐色
	66	頸部は「く」の字状に屈曲し口縁は中央を肥厚させて外に開き端部は水平な面をつくり、丸くおさめる。	口縁内外面共にヨコナデ。体部外面頸部タテハケ、以下ナナメハケ目、体部内面ヨコのヘラケズリ。	胎土：1～1.5mm位の石英、長石、砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色
	67	体部は内窓し頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁は中央をやや肥厚させながら外反し端部は少しつまみ出して丸くおさめる。	外面体部ナナメのハケ目。内面体部下半未調整、他はヨコナデ。	胎土：1～3mm位の長石、石英と1～2mm位の砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：乳灰褐色

图形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
土 甕 器	68	口縁部のみ残存。体部より「く」の字状に口縁が内窓気味に開き上方で少し肥厚し端部は内傾する平面を有する。	外面頸部より下はタテヨコハケ目、口縁部はマメツして不明。内面と端部はヨコナデ。	胎土：0.2mm～2.5mm位の長石、石英、その他の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：淡灰褐色
	69	体部の下半欠損。体部より「く」の字状に口縁が開き、端部は丸くおさめる。	外面体部はタテ、斜めハケ目、他はヨコナデ。	胎土：微細～1.5mm位の長石、石英、黒色砂粒、その他の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：灰茶褐色
	70	口縁はまっすぐにのび外に開く。端部付近を内に肥厚させる。端部は上に平面をもつ。	内外面共ヨコナデ、体部内面ヨコのヘラケズリ。	胎土：砂粒と少しの石英を含む 焼成：やや硬質 色調：淡乳灰色
	71	頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁はまっすぐ外に開き、内傾する凹んだ端面を有する。端部は丸くおさめる。	内面口縁はヨコナデのあとナナメのハケ目、体部はヨコナデ。 外面口縁はヨコナデ、体部はナナメのハケ目。	胎土：微細な石英、長石、砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：白乳褐色
	72	口縁部のみ残存。体部より「く」の字状に口縁がやや外反気味に開き端部は丸く下方向少しつまみ気味である。	外面体部は斜めハケ目、他はヨコナデ。	胎土：微細～1.5mm位の長石、石英、その他の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色
	73	口縁部付近のみ残存、頸部は「く」の字状に屈折し、口縁はやや外反しながら続く。端部は内傾する面をもつ。	外面は口縁部がヨコナデ、他はナナメハケ、内面は口縁部から頸部付近までヨコハケ、他はヨコナデ。	胎土：1～3mm位の石英、長石、その他の砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：淡黄褐色
	74	口頸部のみ残存。外上方にまっすぐに開き口頸部にゆるい段を生じ角度を変えて口縁に至っている。端部は内側につまみ出して凹面を有する。	全面ヨコナデ。	胎土：微細～1mm位の砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：灰淡褐色
	75	口縁は屈曲外反し、あごを持って外傾しつつ立ちあがる。端部は水平方向につまみ出し水平な面をもつ。	外面口縁のあごより下ヨコハケ、他はヨコナデ。	胎土：1～2mm位の長石、石英、黒色砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：灰茶褐色
	76	口縁のみ残存。口縁部は外反し、頸をつくり直して立ちあがる。端部はわずかに上方につまみ出し、内側に浅い凹線がめぐる。	内面短部付近から外面はヨコナデのあと口縁外面に二条の沈線をめぐらす。頸に矧い不規則な刻み目を施す。内面口縁部下半ヨコのハケ調整。	胎土：0.5～1mm位の石英、長石を含む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色（外面スス付着のため黒褐色）
	77	口縁のみ残存。口縁部は屈曲外反し頸を出し垂直にのびる。端部は外側につまみ出すため、ほぼ水平な凹面をつくる。	外面頸部にナナメハケ調整、他はヨコナデ。頸に不規則なナナメの刻み目を施す。	胎土：0.5～1.5mm位の石英、長石、砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：灰黃褐色（内面赤褐色）
器 台	78	口縁はゆるやかに内窓気味に外方へ広がる。端部は外傾する面をもつ。	外面は未調整。内面はタテのミガキをもつ。	胎土：微細～2mm程度の黒色砂粒、長石、石英を含む 焼成：硬質 色調：暗褐色
須恵器 杯 蓋	79	天井部外面は丸味を帯び、天井部と口縁部の境には明確な稜線がある。天井部から口縁部に向って内窓し、口縁端部は内傾する凹面を有する。	天井部、外面稜線より少し上からはヘラケズリ、他はヨコナデ。	胎土：5mm位の長石1ヶ、1～2mm位の長石を含む 焼成：硬質 色調：暗灰色

器形	土番 番号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
頬 恵	80	天井部はほぼ平坦。口縁部は内弯気味にのびる。天井部と口縁部の境に明確な稜線を有する。端部は内傾する段を有する。	内外面共ヨコナデ、外面天井部に%以上回転ヘラケズリを有する。	胎土：内外面とも0.5~2mm程度の長石、石英、その他の砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：青灰色
	81	天井部はほぼ平坦。口縁部は内弯気味にのびる。天井部と口縁部の境に明確な稜線を有する。端部は内傾する平面をもつ。	内外面共ヨコナデ、外面天井部に%以上回転ヘラケズリ、内面天井部中央に同心円凹きを有する。	胎土：内外面共0.5~2mm程度の長石、石英、その他の砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：青灰色
	82	天井部はほぼ平坦。口縁部は内弯気味に外方へのびる。天井部と口縁部の境にやや明確な稜線を有する。端部は内傾する凹面をもつ。	内外面共ヨコナデ、天井部に%以上回転ヘラケズリを有する。	胎土：内外面とも1mm程度までの細かい長石、石英、その他の砂粒を含む 焼成：硬質 色調：青灰色
	83	天井部はやや丸味を帯び、口縁部との境に明確な段をもつ。口縁部は内弯気味に垂下し、端部内側に内傾する凹面をもち、そこに沈線が1条めぐる。	外面天井部はヘラケズリ、他は内外面共ヨコナデ。	胎土：1~2mm程度の長石、灰色、黒色砂粒及び、白色微砂粒を含む 焼成：硬質 色調：灰色
	84	天井部はほぼ平坦。口縁部が外方に向って開く。端部は内傾する凹面をもつ。	外面口縁部と内面はヨコナデ、外面天井部はヨコナデ。	胎土：細かい黒色砂粒と、0.5~2mm位の長石を多く含む 焼成：硬質 色調：青灰色
器 身	85	天井部はほぼ平坦で、口縁部は内弯し、口縁部との境は不明確につながっている。口縁はやや外へ開き気味で端部は丸くおさめる。	外面天井部はヘラケズリ、内面天井部中心付近は不整方向ナデ他はヨコナデ、正位置においてのケズリの方向は左回り。	胎土：微細な長石を含む 焼成：硬質 色調：灰色
	86	底部は平坦。口縁部は外に向って開く。端部は丸くおさめる。	外面底部は未調整。内面と外面口縁部はヨコナデ。	胎土：内外面とも0.5~3mm程度の黒色砂粒、長石、その他の砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：青灰色
	87	底部は平坦で外端部より少し内側に断面台形の高台が内側で接地している。口縁は底部より内弯気味にまっすぐ立ち上がりやや外反気味に伸びる。口縁端部は丸くおさめる。	ヨコナデ。	胎土：0.5~1mmの長石を少し含む 焼成：硬質 色調：明灰色
高	88	立ち上がりは内傾しつつ外反して長く、端部は内傾する凹面を持つ。受部は水平にのび端部は丸くおさめる。体部は内弯する。脚部に軸部の底面と接した所から長方形のスカシ孔がみられる。	外面底部付近ヘラケズリ、他はヨコナデ、脚部外面にカキ目。	胎土：良好(砂粒を少し含む) 焼成：硬質 色調：灰色
杯	89	口縁は少し内弯気味に上にのび、外に大きく開き、端部付近で外反する。口縁下方に、断面三角形の突唇が巡る。端部は丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ、口縁下部に櫛描波状文。	胎土：砂粒を含む 焼成：硬質 色調：暗灰色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
須 恵 器	90	口縁部は内弯気味に外上方に伸び、端部近くで少し外反する。端部は丸くおさめる。外面中位に断面三角形の凸帯を2本有し、その下に1条(8本)の波状文を有する。	回転ナデ調整。	胎土：0.5~1mm位の長石を少しと微細な黒い砂粒を少し含む 焼成：硬質 色調：灰色
	91	口縁部は外反しながら上方に伸び、外面1%と殆ど位の部分と端部下方に断面三角形の凸帯をめぐらしている。端部下方に沈線が1条めぐる。外端面にゆるい段をもつ。端部は上につまみあげている。1%と2%の間に1条(8本)の波状文がみられる。	回転ナデ調整、波状文のところはナデのあと波状文。	胎土：0.5~1mm位の長石、石英及び微細なくさり輝をほんの少し含む 焼成：硬質 色調：灰色
白 磁 碗	92	底部はほぼ平坦で底部外端に断面台形の高台がまっすぐ下にけずり出し輪高台を持つ。重ね焼きしたと思われる跡が底部内面にみられる。	外面は高台以外に施釉。内面は見込み以外に施釉	胎土：精良 焼成：硬質 色調：乳白色
黒 色 土 器	93	底部は丸みをおびる。口縁は少し内弯気味。断面三角形の高台は外向きにふんぱり貼り付いている。	内面はヘラミガキ。内面の底部と口縁との境にヘラミガキの跡が細かくはっきりと残っており、他はマメツ。底部外面は未調整。はりつけ部分から口縁にわたりヨコナデ。	胎土：0.1~0.3mmの石英を少し含む、良好 焼成：やや硬質 色調：内面は黒色化、外面は乳灰褐色
	94	口縁はやや内弯しながら上にのびる。断面三角形の高台はやや外向きにふんぱり、貼り付いている。口縁下部が少し肥厚している。	内外面共マメツ。高台部分ヨコナデ。	胎土：良好 焼成：やや硬質 色調：内面は黒色、外面は乳灰色(鉄分付着のため茶褐色)
	95	底面は中心に向かって下向気味(丸底) 内口縁は内弯気味に上にのびる。断面三角形の高台は外にふんぱり気味に貼り付いている。	内外面共ヨコナデ、内面は黒色化。	胎土：長石と砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：内面は黒色(素地は暗灰色)

B III トレンチ出土遺物観察表

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
甌 甌	201	頸部は大きく外反し、口縁部は不明確に頸を形成し、外上方に立ち上がり内寄気味に端部にいたり丸くおさめる。	内面ヨコのハケ目、外端面はマメツ、他はタテのハケ目。	胎土：1～2mm位の石英、長石、砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：暗灰色（表面に鉄分付着のため赤褐色）
	202	口縁は内傾ぎみに立ち上り、中ほどより外反する。端部はやや肥厚ぎみで、ほぼ水平になり、丸くおさめる。	口縁外面はタテ、ナメのハケ目、口縁端部は刻み目を施し、内面はヨコのハケ目。	胎土：1～1.5mm程度の石英、長石、砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：暗褐色
生 土	203	口縁は強く外反し、外面に頸を張り出し、やや内寄気味に立ち上がる。端部はやや肥厚して、少し外傾しつまみ出す。	外面口頸部はナメのハケ目が施され、頸の立ち上り部分には、タテのハケ目、頸部分には、刻み目があり、口縁上部には、刺突列点文が施される。内面頸部には、ナメハケがわずかに見られる。	胎土：0.5～1mmの砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：外面 白茶褐色、内面 淡灰色
	204	口縁はやや開き気味に上方にのび、端部は外へつまみ出るように丸くおさめる。	口縁外面下部はタテのハケ目、上部はヨコナデ、内面下部はヨコハケ、上部はヨコナデ。	胎土：1mm程度の長石、その他砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色
甌	205	口縁は屈曲外反し、一度水平な面を作ったあと頸を出し、直後に外反ぎみに立ちあがる。端部は外方へつまみ出す。	口縁内外面共にヨコナデ、立ち上り内面はマメツ、外面はハケ目を施す（ナメのハケ目沈線）。	胎土：1～2mm位の長石、石英を少しと砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：白灰色（外面ス付着のため黒灰色）
	206	脚部欠損、底部から口縁にかけて内寄し、端部は少しつまみ出し、水平な面を持つ。	口縁内部外面共ヨコナデ、体部底内外面共乱ナデ。	胎土：1mm～2mm位の石英、長石を含む 焼成：硬質 色調：内面乳灰褐色、外面口縁は乳灰褐色、体部から底部にかけて乳褐色
高 杯	207	口縁は大きく外反の後、外上方へ伸び端部は丸くおさめる。	内面横ハケ目であるがマメツのため詳細不明、外面ヨコナデ。	胎土：0.5～2mm位の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：淡乳褐色（外面鉄分付着）
	208	頸部は「く」の字状に外に向き、口縁はやや外反し、端部は外傾する平面をもつ。	口縁内外面共ヨコナデ、外面体部タテハケとヨコハケ、内面体部ヨコハケ。	胎土：1mm位の石英、長石を少し2～3mm位の砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：白乳褐色
甌 甌	209	体部は内寄ぎみで境目をやや不明確にして口縁がゆるやかに外反する。端部近くでわずかに肥厚ぎみになり端部は丸くおさめる。	内面体部はハケ目と思われるがほとんどマメツ、口縁はヨコハケ、外面体部はナメの細かいハケ目。口縁はヨコナデ。	胎土：0.5～1mm位の砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色
器台	210	口縁部は大きく外反し、端部を下方に垂下させる。	ナデ調整と思われるがほとんどマメツ。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：乳黃褐色

器形	土番号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
土器器 器台	211	口縁はまっすぐ上方ナメにひらく端部を外下方に垂下させ端面に2本の凸線紋を施す。	端部近くはヨコナデ、端部外面に2本の凸線紋、他はマツ。	胎土：0.2～0.3mm位の砂粒、雲母を多く含む 焼成：硬質 色調：乳灰褐色（内面は鉄分付着の為まだら状に赤褐色）
深鉢	212	口縁部は、大きく外反し、端部で内弯ぎみにのびる。	内面と外面上部は貝殻、条痕、半截竹官による刺突文。	胎土：0.5～1mm位の石英、長石を少し含む 焼成：やや硬質 色調：褐色（表面スス付着）
縄文土器	213	口縁部は外反し、上半部で内弯する。端部は丸くおさめる。	外面の端部よりやや下に、貝ガラによる沈線、他は不明。	胎土：1～2mm位の石英、長石を含む 焼成：やや軟質 色調：褐色（表面にスス付着）
深鉢	214	口縁部はやや開きぎみに立ちあがり端部は外側に折り曲げて肥厚させる。	全内面、外面、口縁部ヨコナデ、外面体部ハケ目。	胎土：0.5～2mm位の石英、長石、砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：灰茶褐色
	215	体部は内弯ぎみにはば直立し、口縁部は外反して外側に折り曲げて肥厚させる。体部最大径と思われる位置に一条の突帯がつく。	内面は、貝殻条痕。外面はススが付着して不明。	胎土：0.5～3mm位の石英、長石その他の砂粒を含む 焼成：やや軟質 色調：褐色（外側スス付着）
壺	216	口縁は大きく外反し、下につまみ出す。端部の上下を指でおさえて、波型を作る。	今面ほとんどマツ。	胎土：2～3mm程度の石英、長石その他の石を多く含む 焼成：やや硬質 色調：赤褐色（鉄分付着の為と思われる）
弦生土器	217	ゆるやかに内弯する体部からゆっくりと外反して口縁になり、端部は丸味を帯びてはいるが、外傾している。	内面はマツ、外面はナナメのハケ目が一部にみられる。	胎土：1～3mm程度の石英、長石その他の砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：乳褐色、口縁にスス付着
	218	口縁は外反し、端部は上下につまみ出たため垂直な面ができる。	外面口縁はタテハケ、他はヨコハケ。	胎土：2～3mmの白色砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：淡褐色
壺	219	体部より急に強く外反し、口縁部に入ると肥厚する。端部は上下につまみ出しほと垂直な平面をもつ。	外面は頸部以下はナナメハケ。端面には波状紋と端部に刺突列点文が施されている。内面は口縁より体部近くまで波状紋が施されている。	胎土：0.5～2mm程度の石英、長石を多く含む 焼成：硬質 色調：内面 乳茶褐色で一部スス付着 外面 体部乳茶褐色、口縁スス付着の為黒褐色
	220	口縁は直立気味より上方に向って外反し、端部は垂直になり、上下につまみ出す。	口縁外面はタテハケ、端部は二本のヘラガキ沈線。内面上部は二段の波状紋、下部はほとんどマツ。	胎土：1～2mm程度の長石、石英、その他砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：茶褐色
長颈壺	221	頸部からゆるく外反し長く伸びる。口縁端部に平坦な面み有する。	内面下半分は未調整、上半分と口縁端部はヨコナデ、外面はタテハケ、端部付近はヨコハケ。	胎土：微細～2mm大の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：淡乳褐色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
甕 生 土 器	222	底部はほぼ平坦、中央部に直径7mmくらいの穴がある。底部から体部にかけて厚みがあり、底部と体部の境目は明確である。体部は外にまっすぐに広がる。	外面部はタテのハケ目。底部は未調整、内面はナデ調整。	胎土：1～3mmの石英、長石、黒色砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：外面部は黄褐色、内面は鉄分付着の為茶褐色
	223	口縁部は屈曲外反し、頸を形成してほぼ垂直に立ち上がり、端部は外上方へややつまみ出しがみにもちあげる、内傾する平面を有する。	外面の頸に2個づつ刺突列点文がめぐる外面と内面の端部はヨコナデ、他はマツ。	胎土：1mm位の石英、長石、黒色砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色（外面部は鉄分付着のため赤褐色）
	224	外面口縁から頸部にかけてスス付着、口縁は屈曲外反し、アゴをもって外傾しつつ立ち上がる。端部は水平方向につまみ出し、上に凹面を有する。	内面と外面口縁端部付近はヨコナデ、他は刺突列点文。	胎土：0.2～1mm大の砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：灰茶褐色（外面部全体にスス付着）
	225	口縁部が屈曲して外反し、やや外方へ開きがみに立ちあがる。端部はほぼ水平な面を有し、ややつまみ出している。	内外面ともヨコナデと思われるが、内面はマツのため不明、外面口縁部と体部上方にゆるい櫛描列点文を施す。	胎土：1～2mm位の石英、長石、砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰赤褐色
	226	口縁は屈曲外反し、一度水平な面を作ったあと、頸を出し斜めに立ち上がり、水平な端面をもつ。	端部内面、水平面はヨコナデ、端部外面はヨコナデの後、櫛描刺突列点文を施す。立ち上がり外面ナデ、体部にかけてナナメハケ、櫛描き直線文を施す。立ちあがり内面はマツのため不明。	胎土：1～2mm位の石英、長石、黒色砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：乳茶褐色（外面部、ススの為黒色）
	227	底部はほぼ平坦で、口縁は底部からやや内寄しており外へ開き気味に上がっている。口縁端部は丸くおさめている。	内面底部は乱ナデ。外面底部は未調整、他はヨコナデ。底部はほぼ全面に「スス」が付着している。	胎土：良好 焼成：硬質 色調：赤褐色
杯 土	228	丸い底部からやや内寄り気味に外へ開くように口縁部がつづき端部付近は強く外反し、底部と口縁部の区別ははっきりしない。口縁端部は丸くおさめる。	内面底部に乱ナデ。外面底部は未調整、他はヨコナデ。	胎土：雪母を少し含む 焼成：やや硬質 色調：外面部淡乳赤褐色、内面赤褐色
	229	口縁部は底部より内寄しながら立ち上り途中で「く」の字状に屈曲して外へ開きがみにのびる。端部は丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ	胎土：0.2～1mm大の長石、石英、クサリ礫、黒色砂粒を含む 焼成：やや軟質 色調：乳褐色
	230	底部より口縁に向けて内寄している。全体に厚めで口縁は端部に向ってやや肥厚がみである。口縁部は内寄し端部は丸くおさめてある。	口縁部は二段に粘土拘の接合痕が明確にある。内面はヨコナデで口縁上部はねあげている。口縁外縁のつなぎ付近は指おさえをしてある。外面口縁下半はヨコのヘラケズリ。	胎土：1mmの石英、黒色砂粒を含む 焼成：やや軟質 色調：乳赤褐色
高 器 杯	231	高杯を杯部のみで脚部は欠損。ほぼ水平な底部から口縁部に向って内寄し、端部は外へ開きがみに丸くおさめる。	内外面とも口縁部はヨコナデ、内面底部は定方向のナデ、他は未調整。	胎土：0.5mm位の砂粒を少し、2mm位の砂粒数個含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色（内面やくすんでいる）
	232	高杯の杯部のみで脚部は欠損、ほぼ水平な底部から口縁部はまっすぐにやや外へ開き気味にのびている。口縁端部は丸くおさめる。	内面と外面の口縁部はヨコナデ、内面底部は定方向のナデ、他は未調整、口縁部のヨコナデの最後のところをねあげている。	胎土：0.5mm位の長石を少し含む 焼成：やや軟質 色調：乳赤褐色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
高 土 師 杯 器	233	脚部欠損、体底部は丸く、底部口縁部の境目を少し角度を変え、口縁部は外に向ってまっすぐ開き、端部は外面側に少し肥厚し丸くおさめている。	内外面共にヨコナデ。	胎土：やや良好 焼成：やや硬質 色調：淡褐色、外面少し鉄分付着、内面鉄分と砂粒多く付着のため体部は茶褐色
	234	底部はやや丸味をおび、口縁部は内窪ぎみに立ちあがり、大きく外反しながら開く。端部は丸くおさめている。底部口縁部の境目に段を有する。	全内面、外面口縁部はヨコナデ、他はマツツ。	胎土：1～2mm位の石英、長石を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳茶褐色、表面ススが付着
	235	底部から内窪ぎみに立ち上り口縁部上半は少し外反する。端部は丸くおさめてある。	内外面共ヨコナデ、外面底部近くは未調整。	胎土：0.5～1mmの石英、黒色砂粒、雲母を含む 焼成：硬質 色調：内面乳褐色、外面乳灰褐色で一部巾3cm、高さ1cm程度のススが端部にある。
	236	口縁部は徐々に薄くなりながら、内窪し端部は丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ。	胎土：0.2～0.3mm程度の微砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：赤褐色（鉄分付着の為）
	237	底部、脚部欠損、口縁部はやや内窪ぎみに立ちあがり、上半部で少し外反する。端部丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ。	胎土：1cm位の小石1ヶと2～3mm位の石英、長石を数個含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色
	238	脚柱部はラッパ状に開き端部は下に肥厚し凹面をもつ。すかし孔が一つある。	脚柱部内面は未調整のしづら目を残し、脚柱部外面はヘラケズリ、他はヨコナデ。	胎土：0.5～1mm位の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色
	239	脚部のみで杯部は欠損。脚柱部はやや開き気味の円筒形で裾で大きく広がる。端部はほぼ垂直に下る。	脚柱部内面は未調整のしづら目と指挥えの跡が残っている。その他、外面、裾部内面はヨコナデ。簡部はタテのヘラミガキ（マツツ）。	胎土：0.5～1mm位の長石、黒色砂粒を含む 焼成：やや軟質 色調：乳赤褐色
	240	脚部のみで杯部は欠損、脚柱部は中ふくらみを持つ円筒形で裾が急に広がっている。スカシ孔はない。	外面は杯部と接合部より1.4cm位のところまでヘラケズリ、脚柱部は上半分がヨコのハケ目で下半分がナナメのハケ目を施し、ナナメのハケ目を一部消している。裾部はヨコナデ。内面は脚柱部が未調整のしづら目を残し、裾は横のハケ目を残す。	胎土：良好 焼成：やや硬質 色調：乳褐色
	241	脚部のみで杯部は欠損。脚柱部はやや開き気味の円筒形で、裾部との境目をはっきりさせて大きく開く、端部はほぼ垂直に下り、丸くおさめる。すかし孔はない。	脚柱部内面は未調整のしづら目を残し、その他外面、裾部内面はヨコナデ。	胎土：0.5～1mmの長石を少し含む 焼成：やや軟質 色調：乳赤褐色
器 台	242	器台脚部と受部の一部分、脚柱部はまっすぐに下がり、先の高さのところで、ラッパ状に大きく開く、スカシ孔は四方に穿つものと思われる。	ヘラミガキ、ナデ。	胎土：0.5～1mm位の石英、長石、黒色砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色（一部鉄分付着のため赤褐色）

圓形	土番 番号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
土	243	体底部はやや扁平な球形を呈し「く」の字状に頸部が屈曲する。口縁は外反して外面に稜線、内面に段をもち、さらに上方へ外反気味に開く。	外面体底部はヨコヘナナメのバケ目、内面体底部は未調整、他はヨコナデ。	胎土：1～2mmの石英、長石他の砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：淡褐色（茶褐色が一面に付着）外面体部に黒斑あり
	244	底部から体部にかけてほぼ球形を呈し、頸部で「く」の字状に屈曲する。口縁は大きく外反し、先端は不明である。	内面底部は未調整で粘土ヒモの巻き上げ痕を残す。外面体部上半はタテ方向の粗いハケ目、他はヨコナデ。	胎土：2～3mmの石英、長石等の砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：淡褐色（鉄分付着部分は赤褐色）
	245	体部はほぼ球形をなし、口縁は斜め上方に屈曲する。頸部は丸くおさめる。	内面、口縁部分はナナメハケ目、他はヨコナデ、外面はタテハケ目、口縁部分はヨコナデ。	胎土：微細な長石、砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：灰色（内面鉄分付着）
	246	体部下半欠損、体部はほぼ球形を呈し、頸部で「く」の字状に屈曲する。口縁は上端でやや内弯し、端部は丸くおさめる。	外面および口縁内面はハケ目、他は未調整。	胎土：0.5～1mm位の石英、長石を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色
壺	247	底部から体部にかけてほぼ球形を呈し、頸部で「く」の字状に屈曲する。口縁は外反し、口縁端部は丸くおさめる。	外面最大径より少し上から以下はヘラケズリ、他はヨコナデ、外面体部上部にタテ方向のハケ目がある。頸部内に指おさえの跡がある。	胎土：1mm位の石英と1～2mmの長石、他の砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：外面乳淡褐色、内淡黒褐色（墨付着）
	248	体部は丸く内弯し口縁は境目を明確にして外反する。端部は丸くおさめる。	体部外面は不定方向にハケ目、口縁頭部にもハケ目が見られる。口縁外面はヨコナデ、体部内面は指おさえのあと、ナナメ上方向にヘラケズリ。頸部にはヘラ状工具で一定方向に調整している。口縁内面は指おさえ調整のあとヨコにハケ目を施す。	胎土：微砂粒を数多く含む 焼成：やや硬質 色調：内面乳淡褐色、外面黒褐色（ススの為）
器	249	口縁部のみで、口縁はわずかに内弯ぎみに立ち上がる。外面は途中下向に水平の面をもつ三角形の突帯をもち端部は外傾した平面をもつ。	内外面共ヨコナデ。	胎土：1～2mm位の石英、長石、灰色砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：淡乳褐色
	250	体底部はやや扁平な球形を呈し、最大径はほぼ中位にある。頸部はやや外反気味にのびている。	ナナメハケをナデで消している。マメツしているため詳細は不明。内面全面にナナメハケ。	胎土：1mm位の石英、長石を少し含む 焼成：やや軟質 色調：赤褐色
瓶	251	扁球形の体底部は肩部付近でわずかに段を有する。頸部はほぼ垂直に立ち上がり、わずかに外反する傾向を有する。体部最大径は $\frac{1}{2}$ 肩部に透し孔を穿っている。	外面最大径以下はヘラケズリ、他はヨコナデ	胎土：2～3mmの石英、他の砂粒が多くなり不良 焼成：やや硬質 色調：淡赤乳褐色（内面と外面肩部以上は鉄分付着の為茶褐色）
甕	252	口縁部のみ残存。口縁は屈曲外反し、額をもって外傾しつつ立ちあがる。端部は水平方向につまみ出し上に水平な面をもつ。	全面マメツで不鮮明だが、口縁部内外共にヨコナデ、体部外面はヨコハケであろう。	胎土：1～2mm位の長石、石英、砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：内面赤褐色、外面黒灰褐色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
土 壺	253	口縁部のみ残存。口縁部は屈曲外反し、あごをもって外傾しつつ立ち上がり、端部は水平方向につまみ出し、上に水平な面を有する。(ゆるやかな凹面を有する)。	内外面共ヨコナデ。	胎土：0.5～2mmの大長石、石英その作の砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：淡茶褐色(外面に多くのススが付着)
	254	体部は上半を残し、下部は欠損する。体部は内弯し少し直立気味に伸び外へ観く外反している。あごはやや内傾し、端部は外方へつまみ出すため外傾する平面を有する。	外面、内面共口縁部はヨコナデ。他はハケ目を施す。  〔頭部は水平方向のハケ目、回転途中でハケ目を止めたあとが數ヶ所残る。体部はタテやナメのハケ目、内面はヨコのハケ目。〕	胎土：0.5～1mmの石英と1～2mmの長石を含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色(外面に多くのススが付着)
	255	体部より外反して頸を形成し垂直に立ち上った口縁は途中で外方に大きく屈曲する。	内外面共ヨコナデ。端部はつまみ出し、口縁上部にヘラガキ沈線が横一本、体部より口縫立ち上がりにかけて同じようにヘラ状の工具で斜格子状に沈線を施す。	胎土：1～3mmの石英、長石、黒色砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：乳白灰褐色(まだら状に鉄分付着による褐色)
	256	口縁は中央をやや肥厚させながら外に開き端部は少しつまみ出し丸くおさめる。	口縁外面ヨコナデ。口縁内面ヨコハケ。体部外面タテハケの痕跡、他は未調整。	胎土：1mm位の長石、砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：淡灰褐色
	257	体部より境目を不明確にして、ゆるやかに口縁が「く」の字型に外反し端部は丸くおさめる。口縁はやや肥厚する。	外面、口縁と頭部にナメのハケ目、内面口縁部にヨコのハケ目、全体にマツメしており、他は不明。	胎土：0.5～1mm程度の石英、長石、黒色砂粒を多く含む 焼成：やや硬質 色調：外面赤褐色(鉄分付着の為)、内面赤黄褐色
	258	底部は丸く、体部はやや偏平な球形を呈する。頭部でゆるやかに屈曲し口縁部はまっすぐに外へ開く。端部は水平方向につまみ出している。体部最大径は上%。	外面体部最大径以下はタテ or ナメのハケ目。内面底部はヨコ、体部はナメのヘラケズリ。他はヨコナデ。	胎土：1～2mmの石英、長石等の砂粒を多く含む 焼成：やや軟質 色調：内面赤黄褐色、外面明茶褐色
	259	体部はなだらかに内弯し、頭部で「く」の字状に口縁が外反する。端部は上下につまみ出すため外傾する面ができる。	内面体部下半はナデ、口縁部下半はヨコハケ、上半はヨコナデ。外面口縁はヨコナデ、体部はタテ(ナメ)のハケ目。	胎土：3～4mmの石英等の砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：明赤褐色
	260	内傾する体部から口縁は断面が「く」の字型に外反する。端部は上につまみあげ凹面をもち外傾する。	内面と外面口縁はヨコナデ。外面体部には細かいナメのハケ目が施されている。	胎土：灰色微砂粒を多く、1～2mmの石英、長石を数個含む 焼成：やや硬質 色調：外面黄褐色の上に黑色のススが全体につく、内面黄褐色
	261	体部下半以下欠損。体部はたて長の球形を呈し、最大径は中位におく。口縁は「く」の字状に外反し、外傾する平面を有する。	内面体部は未調整。口縁部は外面共ヨコナデ。外面体部はマツメ。	胎土：1～3mmの長石、石英、1mm位の雲母を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色、内面は鉄分付着のため茶褐色
	262	口縁は体部より肥厚させながら外に開き、端部は丸くおさめている。	口縁内外面はヨコナデ。体部外面はハケ目、内部は横ハケナデ。	胎土：0.5～2mmの黒色砂粒、赤色砂粒と0.5mmの石英を含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色、内面と外面に部分的に鉄分付着

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
甕	263	体部はゆるく丸みをもって内寄し、体部と口縁の境い目をやや明確にしながら立ち上がり、口縁部は体部よりやや肥厚ぎみに外反する。端部は内傾し途中段をもち、あとは丸くおさめる。	口縁部外面はヨコナデ、体部はナメハケ。口縁部内面はヨコナデの上にナメハケ、体部は右上りのヘラケズリ。頸部付近はヨコのヘラケズリ。	胎土：0.5~1mmの石英、長石、黒色砂粒を多く含み、雲母も内外面共合む 焼成：やや硬質 色調：灰褐色、外面体部はススで暗灰褐色
皿	264	底部はほぼ平坦で口縁は内寄しながら外上方へ伸び端部近くでやや外反する。端部内面に沈線があり、端部は丸くおさめる。	外面口縁部と内面はヨコナデ。外面底部と口縁部の境はヘラケズリ。内面底部に放射状暗文。	胎土：0.5~1mmの砂粒を少し含む 焼成：硬質 色調：内面茶褐色、外面乳褐色
土 杯	265	平らな底部から境をやや不明確にして口縁が内寄ぎみに立ち上がる。端部は丸くおさめる。	外面は全体に左から右方向のヘラケズリの後、粗な波状ヘラミガキ。内面は密なヘラミガキ。(底部は定向向、口縁部は直横=レコード型線状)	胎土：精良 焼成：硬質 色調：明赤褐色（鉄分付着部分は赤茶褐色）
	266	底部平坦。体部は内寄気味に立ち上がり、先端は内側へ丸く巻き込んである。	底部は未調整。体部はヨコナデ。	胎土：1mm大の雲母を1個含む 焼成：やや硬質 色調：淡茶褐色、内面に鉄沈着
筋	267	底部はほぼ平坦で、口縁部はやや内寄し外へ開き気味に伸びている。端部は丸くおさめる。	内面底部は乱ナデ、外面底部は未調整で指頭痕が残る。他はヨコナデ。外面底部に粘土の接合痕と思われるものが残る。内面に直線的な圧痕がある。	胎土：0.5~1mm位の石英を少し含む 焼成：やや硬質 色調：薄乳黄色
	268	上げ底から、内寄気味に立ち上がり、口縁は2段になでつけ、端部は丸くおさめてある。	底部内側乱ナデ、外側は未調整。口縁はヨコナデ。	胎土：微細から1mm大の長石及び黒色砂粒を含む 焼成：硬質 色調：淡い肌色
	269	底部は平坦。口縁部は内寄ぎみに立ち上がり、端部は外反して少しつまみ上げ、丸くおさめてある。	内外面共ヨコナデ。	胎土：良好 焼成：やや硬質 色調：赤褐色
皿	270	底部は中央がややへこんだ平底で口縁部はやや内寄しながら外に開き端部は丸くおさめている。	内面底部、口縁部、外面口縁部共にヨコナデ。外面底部未調整。	胎土：0.5~1mmの大砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色、内外面共鉄分付着のため表面茶褐色
	271	底部平坦。口縁はまっすぐになり立ちあがり、端は少し外へ肥厚し丸くおさめてある。	口縁、内面底部はヨコナデ。外面底部未調整。	胎土：ごく微小な石英を多量に含む 焼成：硬質 色調：乳茶褐色、鉄分沈着のため、外面まだらに茶褐色、内面の破損部灰化
唇	272	底部は平坦。口縁部は内寄ぎみに立ち上がり外反しながら開く。端部は丸くおさめてある。	内外面共ヨコナデ。	胎土：0.5mm位の粒を含むが表面上には出ず 焼成：硬質 色調：淡乳茶褐色
	273	底部は平坦。口縁は内寄気味に立ち上がり端はやや外傾する平面を持ち、いびつである。	口縁部はヨコナデでハケ目の痕があり、底部外面は未調整、内面は乱ナデ。	胎土：良好 焼成：硬質 色調：薄褐色、鉄分沈着のため内外面共まばらに褐色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
土 器 皿	274	底部は平坦で口縁はまっすぐ外へ開いている。端部は丸くおさめている。	内外面共ヨコナデ。	胎土：良好 焼成：硬質 色調：乳褐色、内面と外面に部分的に鉄分付着
	275	底部はほぼ平坦で、口縁部はまっすぐ外にひらき端部は少し外反し丸くおさめている。	内面、外面の口縁部はよこなで、内面口縁部のよこなでは最後をねあげている。	胎土：1～2mm位の石英、長石を含む 焼成：硬質 色調：茶褐色、外面に鉄分沈殿による赤褐色
	276	底部はほぼ平坦。口縁との境目は不明確で口縁部はやや内寄気味に外へひらき口縁上部で一旦薄くなり端部近くで再び厚くなり端部は丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ。底部は未調整。	胎土：0.51mmの石英、黒色砂粒を多數含む 焼成：硬質 色調：乳灰褐色（鉄分付着の為、外面共茶褐色がまだら状にある）
	277	底部はほぼ平坦。底部の端部は接地せず、口縁部との境目は明確。口縁部は一度外反氣味に立ち上がり中央あたりよりやや内寄気味に端部に至る。端部は丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ。底部は未調整。底部内面に沈線が二重円状にみられる。	胎土：0.2～0.5mm程度の石英、長石、黒色微砂粒多數 焼成：硬質 色調：乳黃褐色
	278	底部はやや平坦で口縁部との区分を明らかにし口縁部はまっすぐでやや外へ開き気味。口縁端部は丸くおさめる。	内面はヨコナデで、口縁で上にはね上げる。外面底部は未調整。外面口縁部はヨコナデ。	胎土：1～3mm位の長石を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳黃褐色、内面一面は鉄分沈殿による赤褐色
	279	口縁はやや内寄気味に立ちあがり、上部はやや外反し端部は丸くおさめである。底部は一部欠損するが平ら。	底部は未調整、内外面共にヨコナデ。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：外面は鉄分付着の為赤褐色、内面は乳白色
	280	底部はほぼ平坦で口縁部との区別を明らかなにし、底部から上がって外反して、口縁部はやや外へ開き気味である。口縁端部は丸くおさめである。底部にかすかな円形のふくらみがある。	内面はヨコナデ。外面底部は未調整で土器を置いた時につけたと思われる線状の跡がある。口縁部はヨコナデで所々に指頭痕が残っている。	胎土：1～2mmの石英、長石、0.5mm位の黒色砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：淡乳赤褐色
	281	ほぼ平坦な底部からやや内寄気味に外に開き、端部は丸くおさめである。中心部がやや厚めになっている。	外面底部は未調整。その他はヨコナデ。	胎土：良好、0.5mm程度の砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色、内面に赤褐色の鉄さびが付着
	282	底部はほぼ平坦で口縁は内寄気味に立ち上がり端部は丸くおさめている。	外面底部は未調整、他はヨコナデ。内面外面の約1/3にスカが付着している。	胎土：良好 焼成：やや硬質 色調：乳褐色、外面一部と内面の約1/3以上に鉄分付着
	283	底部は平坦で、口縁はやや内寄気味に開いて端部を少し肥厚させて外反気味に丸くおさめである。	内外面共ヨコナデ。	胎土：良好 焼成：やや硬質 色調：乳褐色、内面一部鉄分付着
器	284	底部はほぼ平坦。口縁部は内寄し端部は丸くおさめている。	内面、外面口縁部はヨコナデ。外面底部は未調整。	胎土：1～2mm位の石英、長石砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：黄褐色、内面鉄分付着による赤褐色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
皿	285	底部は欠損。口縁部は内窩ぎみに立ち上がり、上半で少し外反する。端部は丸くおさめる。	内外面共に口縁はヨコナデし端をね上げる。底部は未調整。	胎土：0.5~1mm程度の石英、長石を含む 焼成：硬質 色調：淡茶乳褐色
	286	底部はほぼ平坦で口縁に向って内窓しており、口縁端部は外へ開き気味で丸くおさめている。	内外面共ヨコナデ。外面底部は未調整である。	胎土：良好 焼成：硬質 色調：乳褐色、内面と外面に部分的に鉄分付着
	287	口縁の下の方が内窓しており、口縁上部において外反する。口縁端部は丸くおさめる。底部はほぼ平坦。	内外面共、口縁部はヨコナデ。内面底部は乱ナデ。外面底部は未調整。(整形時の指圧痕が残る)	胎土：1mm位の石英、長石を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳黃褐色
土 師	288	底部はほぼ平坦。底部と口縁部の境目ははっきりとしており、口縁はまっすぐ外にひらく。口縁上部外面で端部までやや薄くなり、端部は丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ。底部外面は未調整。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：乳灰褐色（内面鉄分付着の為、茶褐色まだら状）
	289	底部は欠損、口縁部は内窓気味に立ち上がり、やや外反する。端は丸くおさめてある。	内外面共にヨコナデ。底部は未調整。	胎土：0.5mm位の雲母をわずかに含む 焼成：硬質 色調：淡赤茶乳褐色
杯	290	高杯の底部、脚部欠損、口縁部のみ残存。口縁部はやや内窓しながら外へ開き端部はやや外反し丸い。外面強いナデのための段を生じる。	内外面共にヨコナデ。	胎土：0.5mm位の砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳赤褐色、内面、鉄分付着のため茶褐色
	291	丸味を帯びた底部から内窓ぎみに口縁が外に開き端部を丸くおさめている。強いナデのため外面に段を生じる。	外面底部未調整、他はヨコナデ。	胎土：0.5~1mm位の長石、石英を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳褐色（外面鉄分付着のため赤褐色）
	292	平らな底部から口縁部へは内窓気味にまっすぐに立ち上がり端部は丸くおさめている。	外面底部は未調整、他はヨコナデ。	胎土：0.5mm大の茶色の砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：褐色
器	293	体部はやや内窓ぎみで端部近くで外反する。厚みは徐々に薄くなり端部でやや肥厚し丸くおさめる。	全面ほんどうマメツ。	胎土：くさり繭を多く含む 焼成：軟質 色調：乳赤褐色
	294	底部は平坦で外端部に短くて断面三角形の高台が外側にまっすぐつく。口縁部は外に向ってまっすぐ開き先端は丸い。	内外面共ヨコナデ。	胎土：0.5~1mmの石英を少し含む 焼成：やや硬質 色調：乳灰褐色（外面鉄分付着のため茶褐色）
椀	295	高台は断面が三角形で底部外周よりやや内側にやや外ふんばりにはりつけてある。底部と口縁部の境ははっきりしており、口縁はやや内窓気味に外へひらく。端部は丸くおさめてある。	口縁部は内面、外面共ヨコナデ、内面は口縁ではねあげている。	胎土：0.5~1mmの石英、長石を数多く含む 焼成：硬質 色調：乳灰褐色で外面は鉄分付着の為、茶褐色の斑状

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
土 師 器	296	底部は平坦で底部の端より内側に断面が三角形の比較的高い高台をやや外へ開き気味にはりついている。高台の内外にはりついた跡が残っている。底部と口縁部の区別ははっきりしており口縁部はやや内弯気味に外へ開く。口縁端部は丸くおさめる。	内面、外面口縁部はヨコナデで内面は口縁ではね上げる。高台のついているところから内へ1cmほどまで高台はりつけのためのナデがのこっている。底部の中心付近は未調整である。口縁端部の1ヶ所を打ち欠いて灯芯置きにしているよう、その周辺に煤状の物質が付着している。	胎土：1～5mmの石英、長石を含む 焼成：やや硬質 色調：乳赤褐色、外面に鉄分沈殿による赤褐色
	297	底部外端に三角形で先端を接地している高台をもつ。体部はゆるやかに内弯し口縁近くでやや肥厚し端部は丸くおさめる。	内外面共ヨコナデ。	胎土：0.5mm程度の砂粒が多く含まれる 焼成：硬質 色調：鉄分付着の為全面赤褐色
	298	底部から内弯気味に口縁部が続く。端部付近で外面に横ナデ調整による段をもつ。断面台形の高台が外下方にふんばった状態で貼り付く、内面は平滑。	口縁端部はヨコナデ。外面体部は指押えによる未調整。高台付近はヨコナデ。	胎土：1～1.5mmの石英と1mm以下の長石を少し含む 焼成：やや硬質 色調：淡茶褐色
	299	底部はやや中央が薄くやや下方へさがる。底部の外周付近に断面長方形の高い高台が平面を接地して外ふんばりに貼り付けられる。口縁は内弯気味に立ち上がり端部は丸くおさめる。	底部外面は未調整、他はヨコナデ。	胎土：1mm位のくさり礫を少し含むが精良 焼成：やや軟質 色調：黄褐色
	300	平らな底部から境を不明確にして口縁が内寄する。端部は丸く收める。底部のはば外周に断面三ヶ月状の高台が付く。	ヨコナデ、釉は内面の口縁端部付近、外面の口縁先にかけられる。	胎土：2mm位の茶褐色砂粒を1つ含むが精良 焼成：堅敏 色調：内面淡茶灰色、外面口縁は灰色、底部は明灰色、釉は白灰色
灰 輪 陶	301	口縁部下半は内弯気味に立ちあがり、上半は外反気味である。端部は丸くおさめる。底部は欠損。	内外面共ヨコナデ。釉は内面と外面口縁端部に施され以下はまばらにみられる。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：淡灰色
	302	口縁部は内弯しながら外へ開くように伸び、端部で、やや外反し、端部は丸くおさめる。	ヨコナデ、全面に施釉。	胎土：微細な長石、その他砂粒を少し含む 焼成：硬質 色調：明灰色
	303	底部は平坦でゆるやかに口縁に続く。高台は底部外端に位置し、やや高めで三ヶ月状をなし、接地面は先端である。口縁はゆるやかに内弯し、上部には一部灰釉が付着。	内外面共ヨコナデ。底部外面には回転、糸切りの跡がある。	胎土：0.5～1mmの黒色砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：白灰色（口縁上部に一部暗灰色の灰釉）
	304	ほぼ平坦な底部から、ゆるやかに口縁に続く。断面ほぼ三ヶ月状の高台が底部外端にはりつく。体部上部には、一部灰釉が付着。	ヨコナデであるが、内面が平滑しているためスズリに転用したのではないかとみられる。	胎土：1mm以下の黒色砂粒、細かな長石を少し含む 焼成：硬質 色調：白灰色
	305	底部はほぼ平坦で、口縁部はやや内弯気味である。断面台形の高台が外へ開き気味に高く立派にはりつてある。	ほとんどのヨコナデ、外面高台内に回転糸切り痕が残る。	胎土：0.5mm以下の長石を少し含む 焼成：硬質 色調：白灰色
器	306	ほぼ平坦な底部に三ヶ月状の高台がやや外下方に外ふんばりにつき、境を不明確に体部に続く。底部内面に一部緑灰色の灰釉が残る。	底部は、外面に回転糸切り跡。あとは内外面共ヨコナデ。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：白灰色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
灰 釉	307	高台付底部のみ残存。底部は平坦で外端部に断面三角形の高台が外下方にふんばった状態で貼り付く。	ヨコナデ。	胎土：0.5～1mm大の黒色砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：黄褐色、内面と外面の一部に鉄分付着
	308	底部はほぼ平坦で底部外端に三ヶ月形でふんばり気味のやや高めの高台をもつ。接地面はやや内凹。口縁はゆるやかに内弯する。	内外面共ヨコナデ。口縁部には内外面共灰釉が付着。	胎土：0.5mm程度の石英を数個と微砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：内外面共底部は淡灰褐色、内面口縁部は濁黄緑色、外面口縁部は淡緑灰色
	309	ほぼ平坦な底部から、やや内弯気味に口縁部が外に開いている。底部外周に三角形の先端が接地した背の高い高台がふんばり気味についている。	外面底部に回転糸切り痕、他はヨコナデ。	胎土：0.5～1mmの長石、微砂粒を少し含む 焼成：硬質 色調：白色
陶 器 壺	310	底部のみ残存。底部はほとんど平坦である。	ほとんどマメツしているため詳細は不明。	胎土：0.5mm位の石英を少し含む 焼成：硬質 色調：淡乳黄色
	311	高台付底部のみ残存。底部は平坦で、外端部に短かくて内傾する高台がしっかりと貼り付いている。(外端で接地)	内外面共ヨコナデ。	胎土：微細～1mm位の長石、微細～0.5mm位の黒色砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：釉は暗緑色、素地は灰色
	312	底部はほぼ平坦(若干丸味を帯びる)。底部外端に台形の高台がどっしりとつく、接地面は底で大きく高台からゆるやかに外へ開き、体部へ続く。	内外面共ヨコナデ。外側の高台と体部の境目に二本の線の様に灰釉が残る。	胎土：灰色微砂粒を多く含む 焼成：硬質 色調：白灰褐色
綠 釉 陶 器	313	底部は欠損。口縁部は内弯気味に立ち上がり、やや外反しながら開く。端部は丸くおさめる。底部と体部の境目に沈線を有する。	内外面共ヨコナデ調整の後、施釉。	胎土：微細な長石を含むがほとんど精良 焼成：硬質 色調：暗緑色～素地は暗灰色
	314	口縁部のみ残存。内弯気味に立ち上がり、端部付近でわずかに外反し、端部は丸くおさめる。	ヨコナデ調整の後、施釉。	胎土：1mm位の石英を1粒含むがほとんど精良む 焼成：硬質 色調：暗緑色
	315	高台付底部のみ残存。底部は平坦で、底部外周より断面台形のしっかりした高台がまっすぐ下へ貼り付いている。内面底部外周付近で一条の沈線が施される。	内外面共ヨコナデ。	胎土：良好(2mm大の小石を含む) 焼成：やや硬質 色調：暗緑色、素地は褐色
	316	平坦な底部の外周より断面台形で内傾する段を有する高台が外側で接地して貼り付いている。	高台内底部に回転糸切り痕あり。他はヨコナデ、内面底部の高台に対応するところに沈線がめぐっている。	胎土：良好 焼成：やや硬質 色調：暗緑色(素地は灰色)
	317	高台付底部のみ残存。底部は平坦で外端部に短かく内傾して段を有する高台が外方にふんばって付き、外端で接地している。内面の高台に対応する部分に沈線がめぐっている。	内外面共ヨコナデ。	胎土：微細な長石を少し含む 焼成：やや硬質 色調：暗緑色

器形	土番 器号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
縄 輪 陶 挽 器	318	高台付底部のみ残存。底部はほぼ平坦で外端部に断面台形の高台が外下方にふんばって外端で接地して貼り付いている。内面の高台よりに対応する部分に沈線があぐっている。	外面底部高台より内に回転糸切り痕あり。他はヨコナデ。	胎土：微細な長石と0.2~1mmの大黒色砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：暗緑色、素地は淡赤褐色
	319	高台付底部のみ残存。底部は平坦で外端部に短かく内傾して段を有する高台が外下方にふんばって外端で接地して貼り付いている。	内外面共ヨコナデ、内面底部に三叉トチンの跡がつく。	胎土：微細な長石と1~2mmの大白と黒の砂粒を少量含む 焼成：やや硬質 色調：暗緑色
	320	高台付底部のみ残存。平坦な底部の外周端より断面台形の高台が外下方に貼り付いている。	外面底部に回転糸切り痕あり。他はヨコナデ、内面の高台に対応するところに沈線があぐっている。	胎土：良好 焼成：やや軟質 色調：暗緑色
	321	高台付底部のみ残存。平坦な底部の外周端より断面台形で端部に内傾してゆるい凹面を有する高台が外側で接地して外下方にふんばった状態で貼り付いている。	底部外面に回転糸切り痕あり、他はヨコナデ、底部内面に沈線があぐっている。	胎土：良好(微細な砂粒を少し含む) 焼成：やや硬質 色調：暗緑色
	322	高台付部分のみ残存。断面台形の高台は内側に沈線を有し、外側で接地して貼り付いている。内面底部に浅い段を有する。	内外面共、ヨコナデ。	胎土：良好 焼成：やや硬質 色調：淡緑色、素地は灰色
	323	平坦な底部外周に断面台形の高台が内端を接地して貼り付いている。	外面底部に回転糸切り痕、他はヨコナデ。内面底部の高台に対応する位置に沈線を施す。	胎土：微細な長石、石英、砂粒を少し含む 焼成：やや硬質 色調：暗緑色
	324	高台付底部のみ浅存。底部はほぼ平坦で外端部に断面台形の高台が外下方にふんばって貼り付いている。内面底部端に一条の沈線を施す。	内外面共ヨコナデ。	胎土：0.5~1mmの大長石を含む 焼成：やや硬質 色調：白灰色
	325	高台付底部のみ残存。平坦な底部の外側より断面台形で端部を少し外へつまみ出したような高台がやや外下方に開き気味に貼り付いている。	内外面共ヨコナデ。内面底部に沈線があぐっている。	胎土：微細~1mmの大長石を含む 焼成：やや硬質 色調：暗緑色
	326	高台付底部のみ残存。底部は平坦で外端部に内傾する面を有する高台が外下方にふんばって貼り付いて外端で接地している。	内外面共ヨコナデ。内面底部ヨコナデ、内面底部に三叉トチンの跡がある。	胎土：微細な長石と0.5~1mmの大灰色砂粒を含む 焼成：やや硬質 色調：暗緑色(素地は淡赤褐色)
	327	口縁部はやや内寄しながら外に開き端部は外反し丸くおさめる。	内外面共にヨコナデ、内面全体にヘラミガキ。	胎土：良好 焼成：やや硬質 色調：乳褐色(外側体部に少し鉄分付着)、内面黒色(外側口縁端部まで黒色がきている)
黒 色 陶 器	328	口縁部はゆるく内寄し端部近くで軽く外反し、端部は丸くおさめる。	口縁外面下半分はナデ、端部近くはヨコナデ、口縁内面は密なヘラミガキ。	胎土：精良(0.5mm程度の石英、長石を少し含む) 焼成：硬質 色調：内面黒色、外側赤褐色

器形	土番 番号	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
黒色土器	329	口縁部は内弯して外上方へ伸びる。端部は内傾ぎみの中へ沈線を施す。	内面はナデ調整の上に研磨調整を施し、花弁状暗文を残す。外面は指圧痕、指頭痕を残す。	胎土：0.5mm程度の灰色砂粒を数個含む 焼成：やや硬質 色調：内面黒色、外面乳灰褐色で端部付近暗灰色
	330	底部は欠損。内弯気味に外へ開くようにより縁部が立ち上り、端部は少し外反し、内側に段を持つ。	内面は横ナデの上からヘラミガキを施している。外面端部は横ナデ、他外面は未調整。	胎土：1mm以下の大石を少し含む 焼成：硬質 色調：黑色
	331	口縁は軽く内弯し、端部近くでわずかに外反する。端面は水平で中に1本の沈線をもつ。	内面ヨコナデの上にややあらいヘラミガキ。外面、口縁上部はヨコナデの上にあらいヘラミガキ、口縁下部は未調整の上にあらいヘラミガキ。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：内外面共黒灰色
瓦 椀 器	332	口縁は浅く内弯し、内面端部下に1本の沈線を施す。端部は丸くおさめる。	内面は密なヘラミガキ、外面は指圧痕の上に密なヘラミガキを施す。	胎土：精良 焼成：やや硬質 色調：暗灰色、素地は淡灰褐色
	333	口縁はゆるく内弯し、端部近くで外反する。端部は内側に段をもち、丸く取める。	内面は密なヘラミガキ、端部周辺はヨコナデ、外面口縁は軽いヨコナデの上に粗いヘラミガキと指圧痕がみられる。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：内外面共暗灰色
	334	口縁は内弯し、端部は内面に段をもち丸く収める。外面は口縁中くらいで浅い段をもつ。	内面はヨコナデの上にあらいヘラミガキ。外面は未調整。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：内面暗灰色、外面は部分的に淡灰色
	335	口縁は軽く内弯し、端部で少し外反し、内側に1本の沈線を施し、端部は丸くおさめる。	内面はヨコナデの上に密なヘラミガキ。外面口縁上部はヨコナデの上にあらいヘラミガキ、口縁下部は未調整の上に(指圧痕を施さる)あらいヘラミガキ。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：内外面共黒灰色(一部明灰色)
	336	外面底部は高台よりも下り、安定が悪い。高台はうすい三角形で先端で接地する。口縁はゆるく内弯する。	内面は不定方向のナデの上にあらいヘラミガキ、外面は乱ナデで高台をとりつけるのにヨコナデとする。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：内外面共暗灰色
	337	底部はほぼ平坦で、うすい三角形の高台がつく。いずれも境目ははっきりせず接地点は先端。口縁はわずかに内弯する。	内面中央は、ラセン状暗文で口縁部はやや粗なヘラミガキ。端部近くに行くほどあらいヘラミガキ。外面は乱ナデの上に指圧痕が残る。高台ははりついで、とりつけるのにヨコナデをもつくる。	胎土：精良 焼成：硬質 色調：内外面共暗灰色



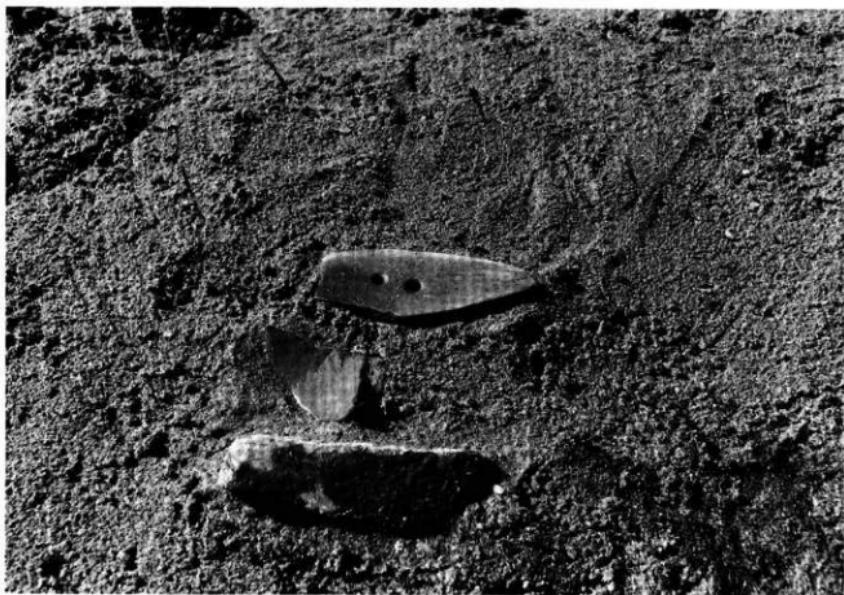
B II トレンチ全景



B III トレンチ旧河道 2



B III トレンチ旧河道1 竿列



石包丁出土状況



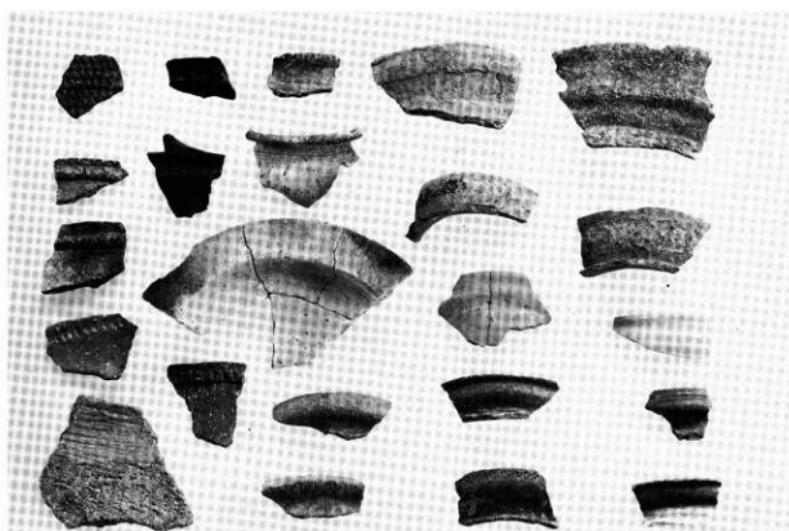
壹出土状況



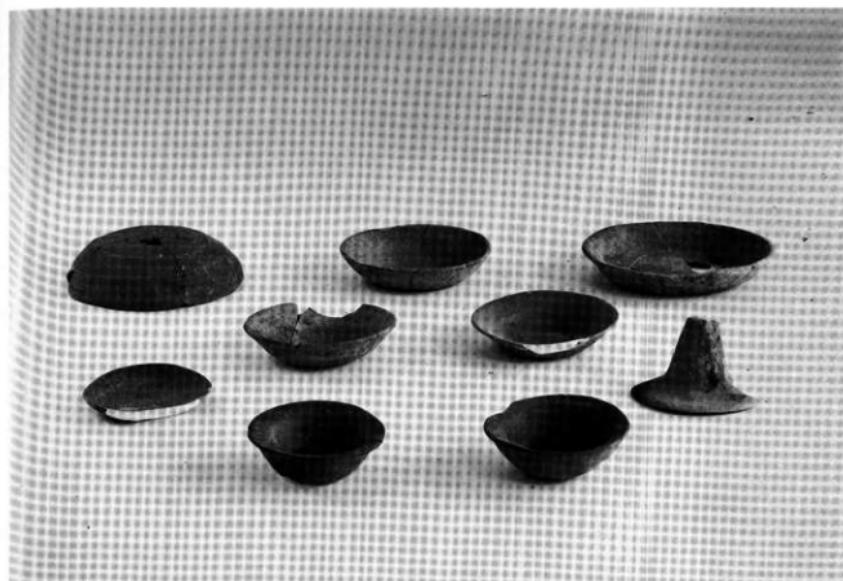
鋤出土状況



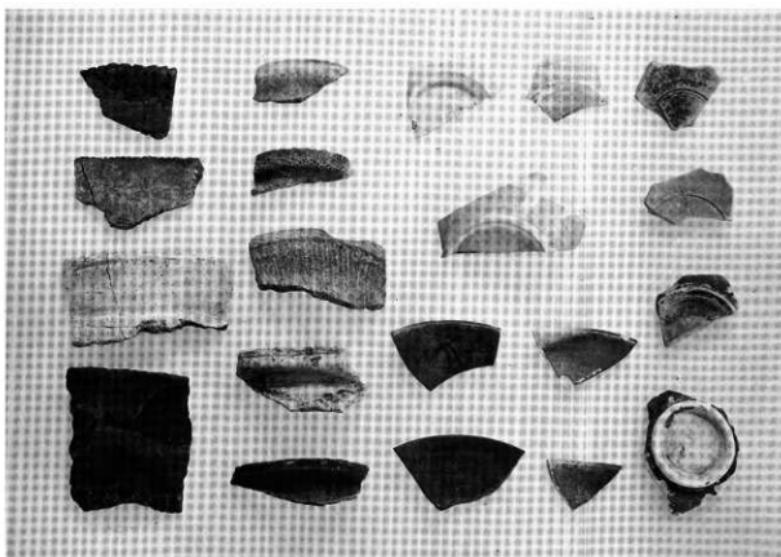
B II トレンチ出土土器



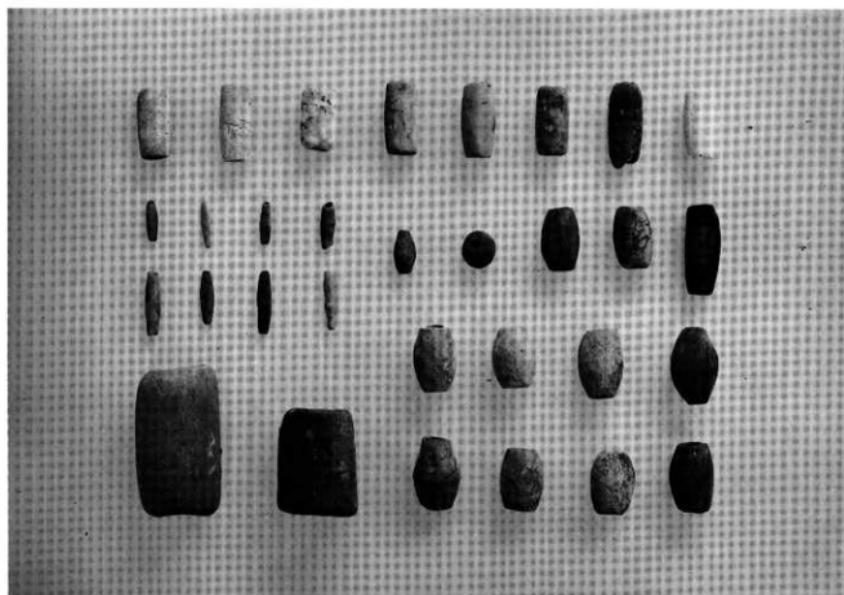
B II トレンチ出土土器



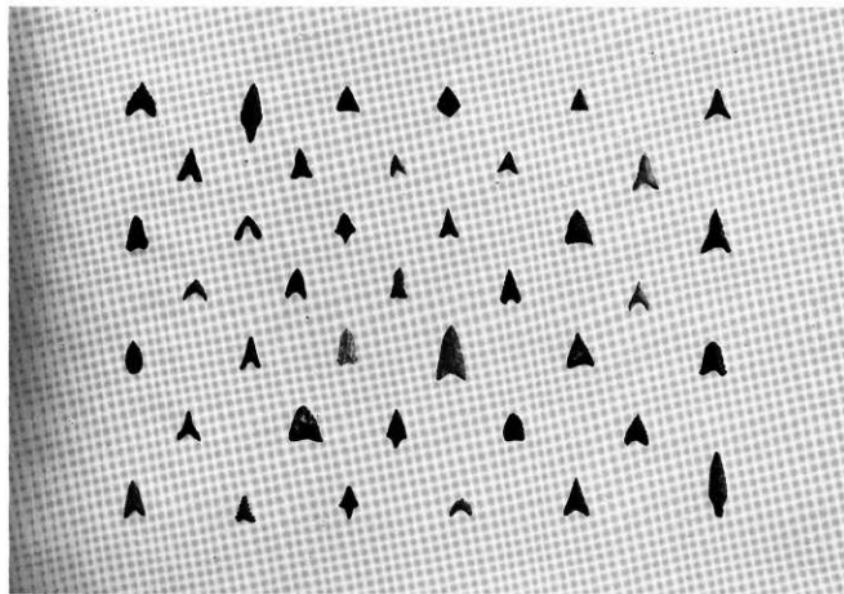
B III トレンチ出土土器



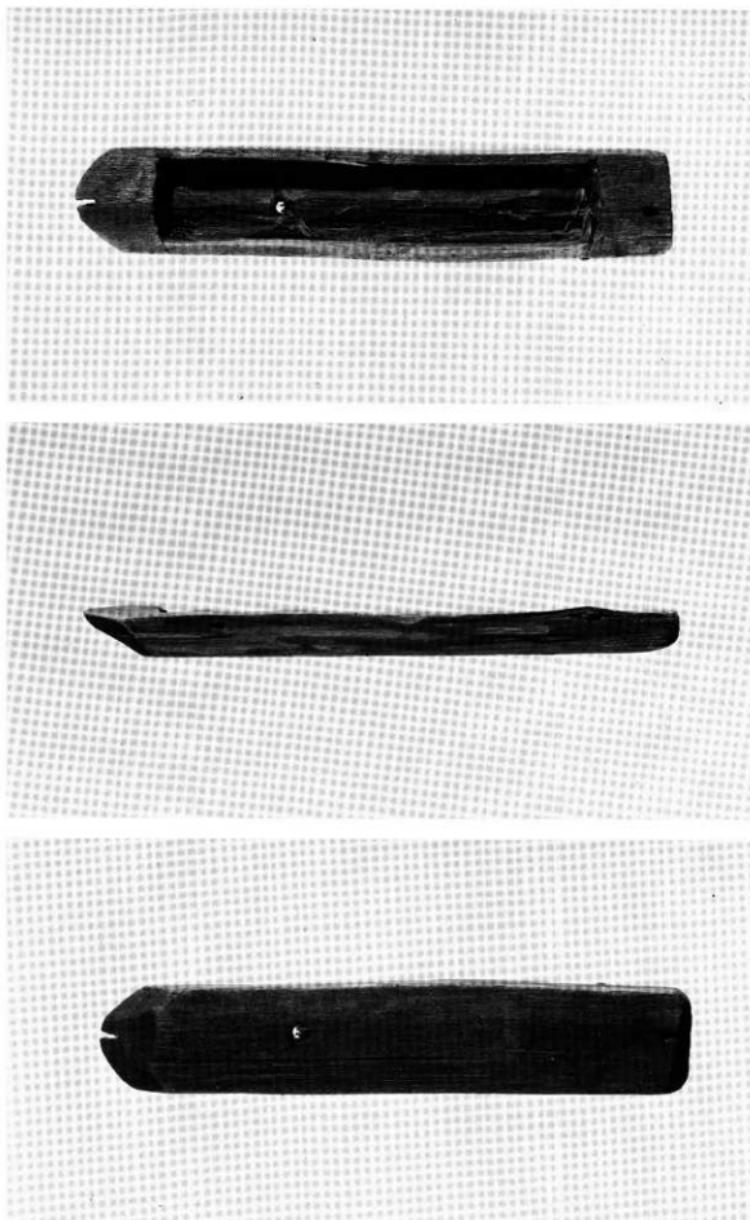
B III トレンチ出土土器



土錐



石錐



ミニチュア舟



長柄鍛



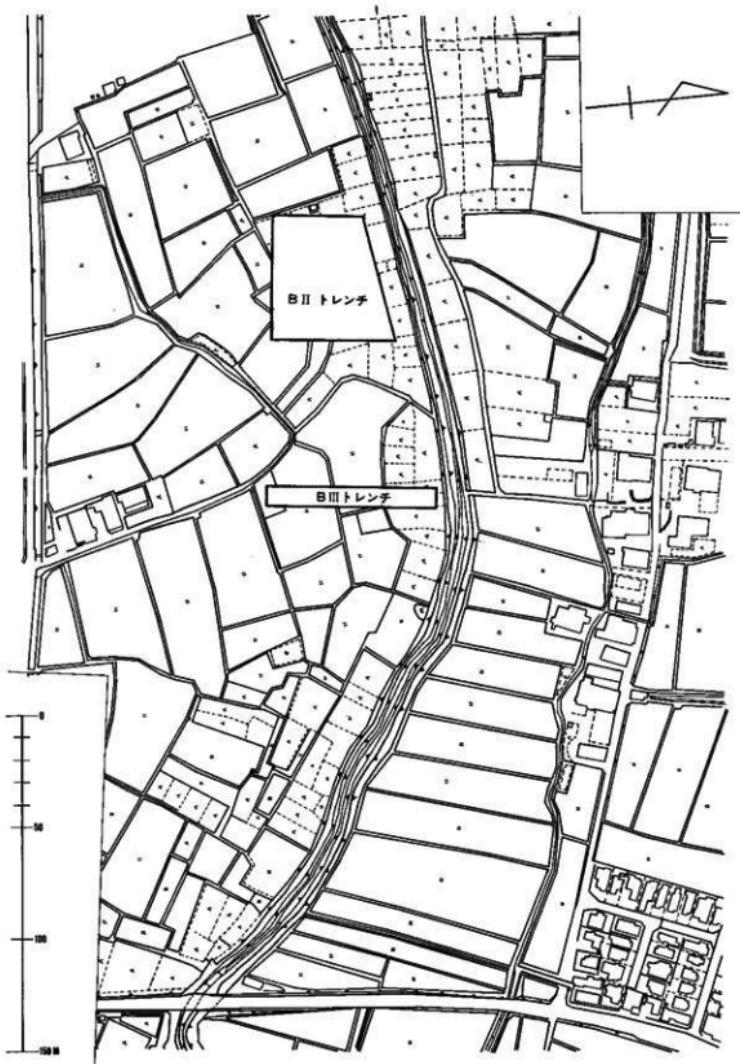
長柄鍛



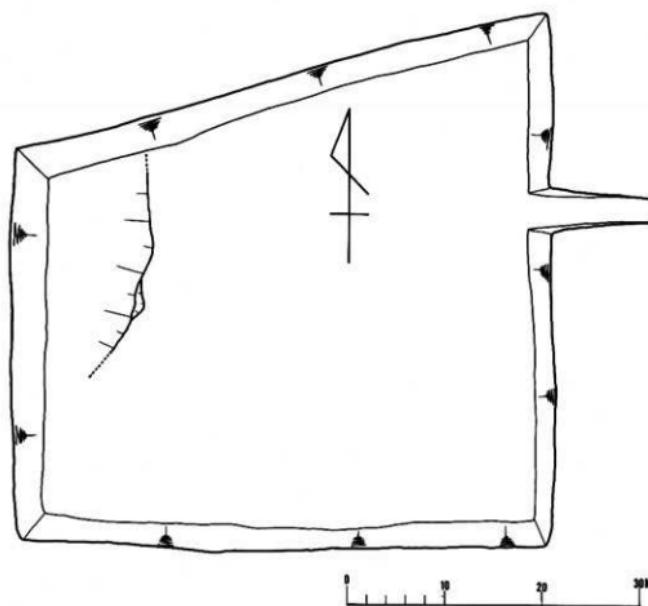
堅件



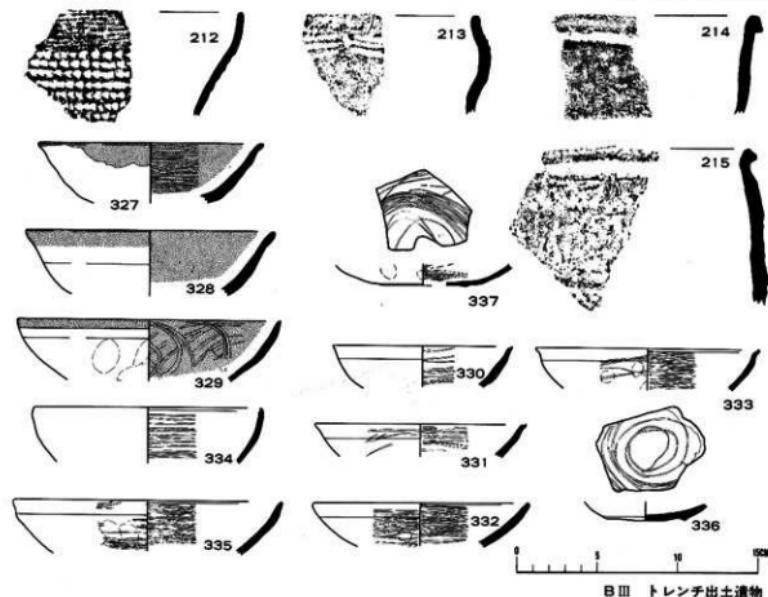
梯子



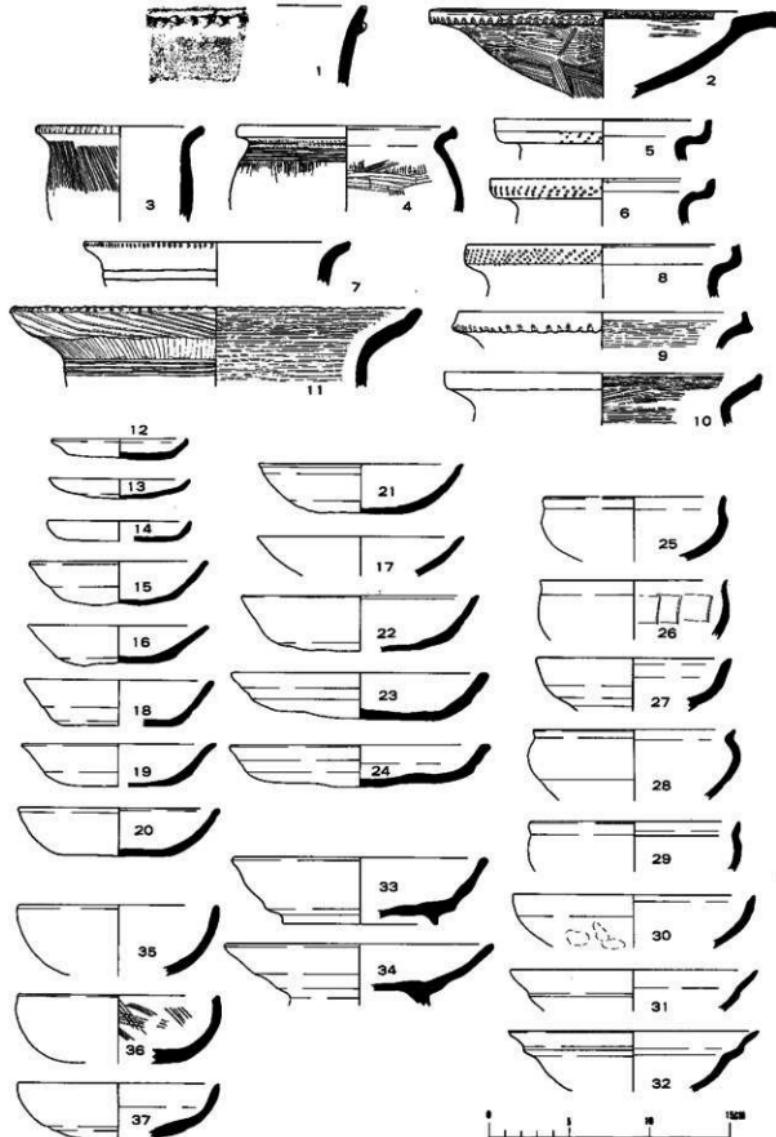
トレンチ位置図

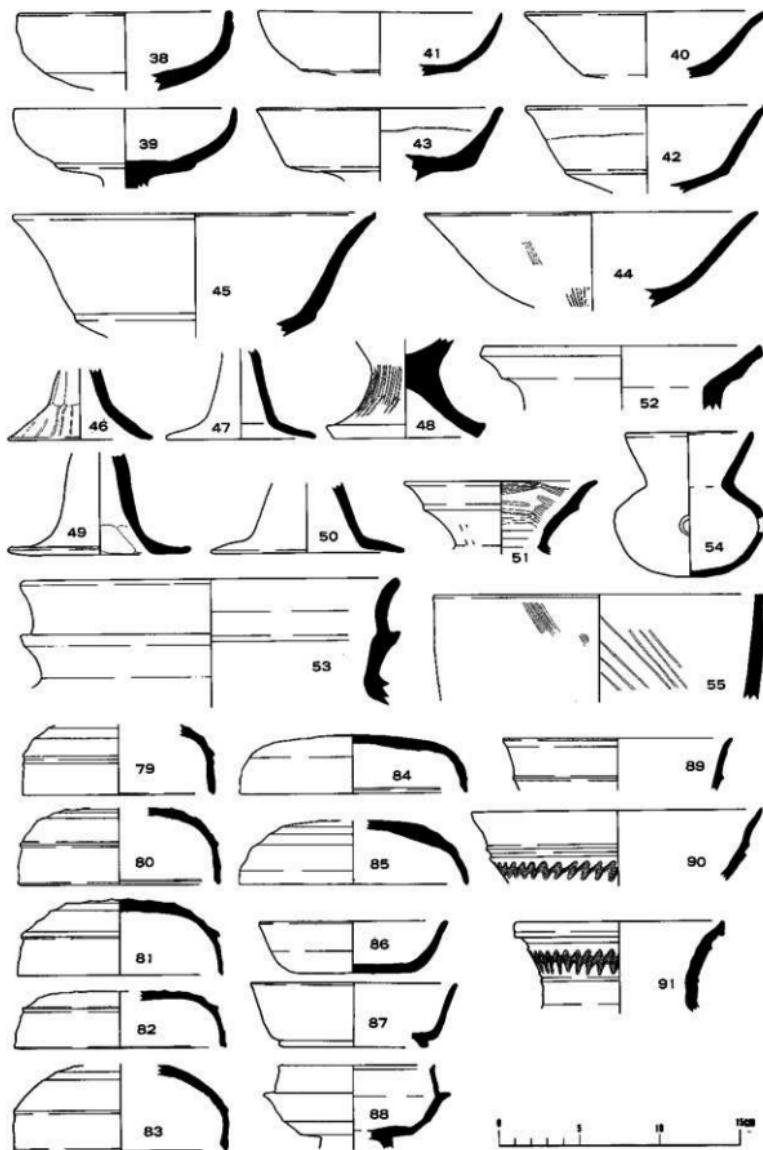


B III トレンチ造構実測図

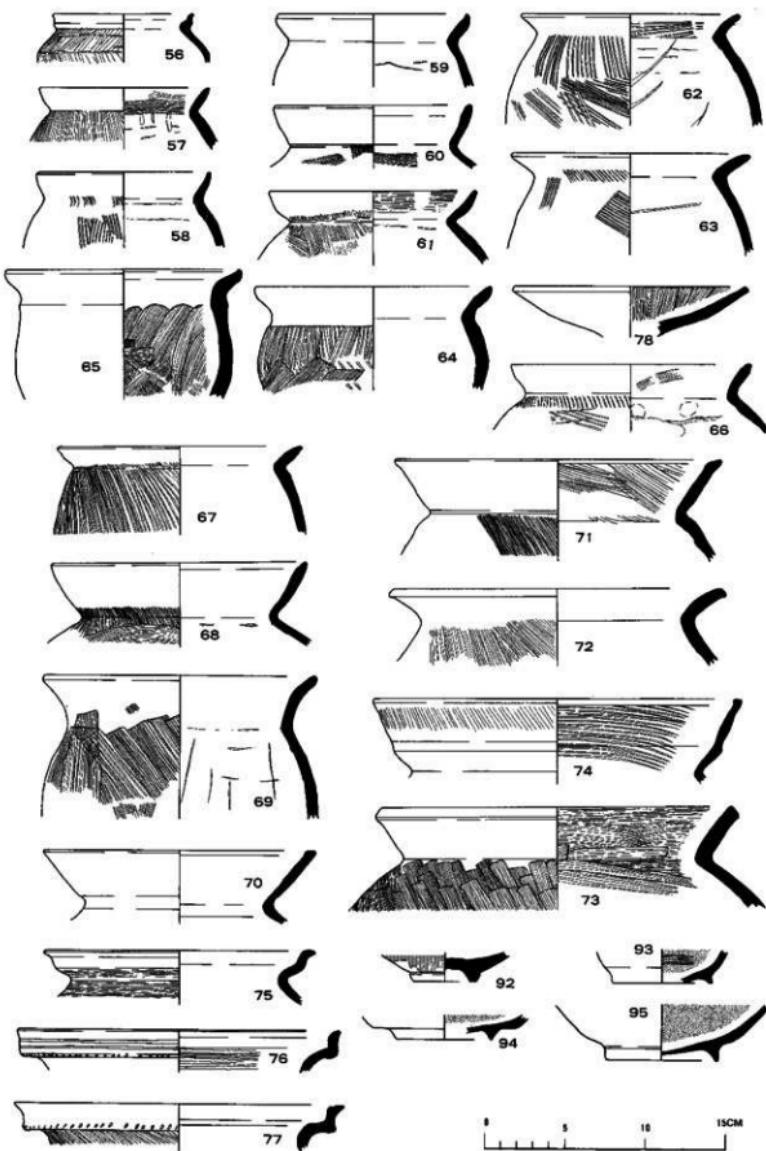


B III トレンチ出土遺物

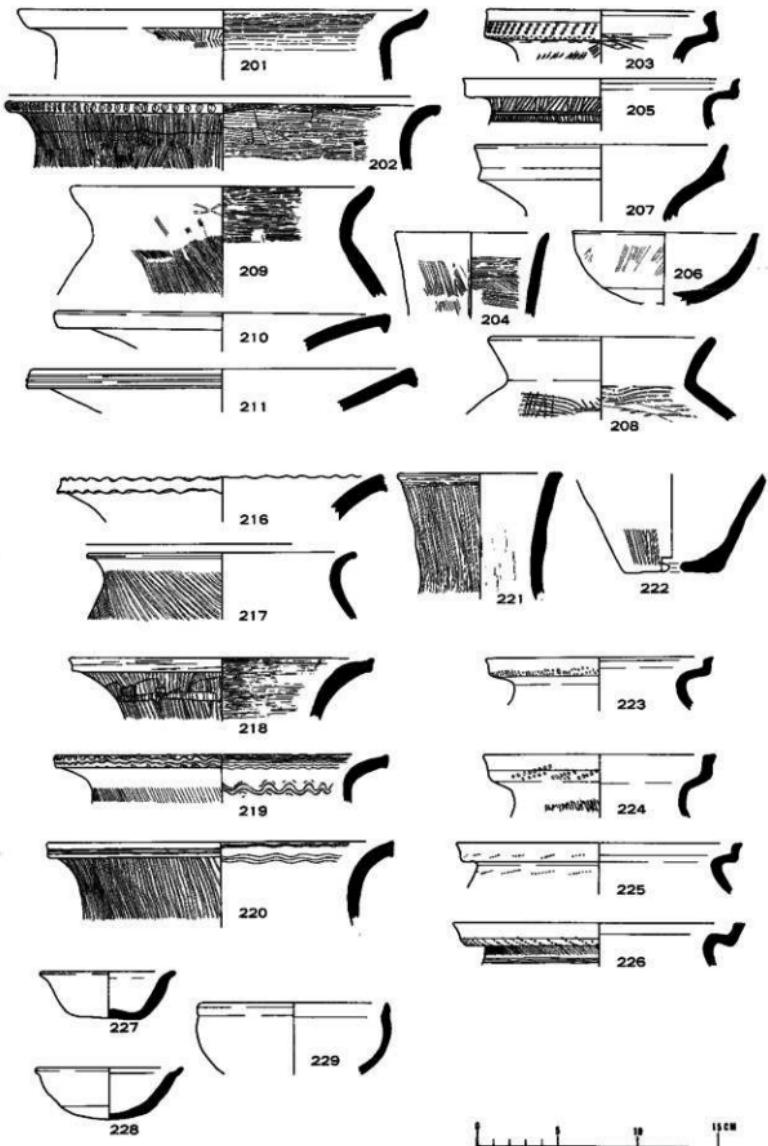


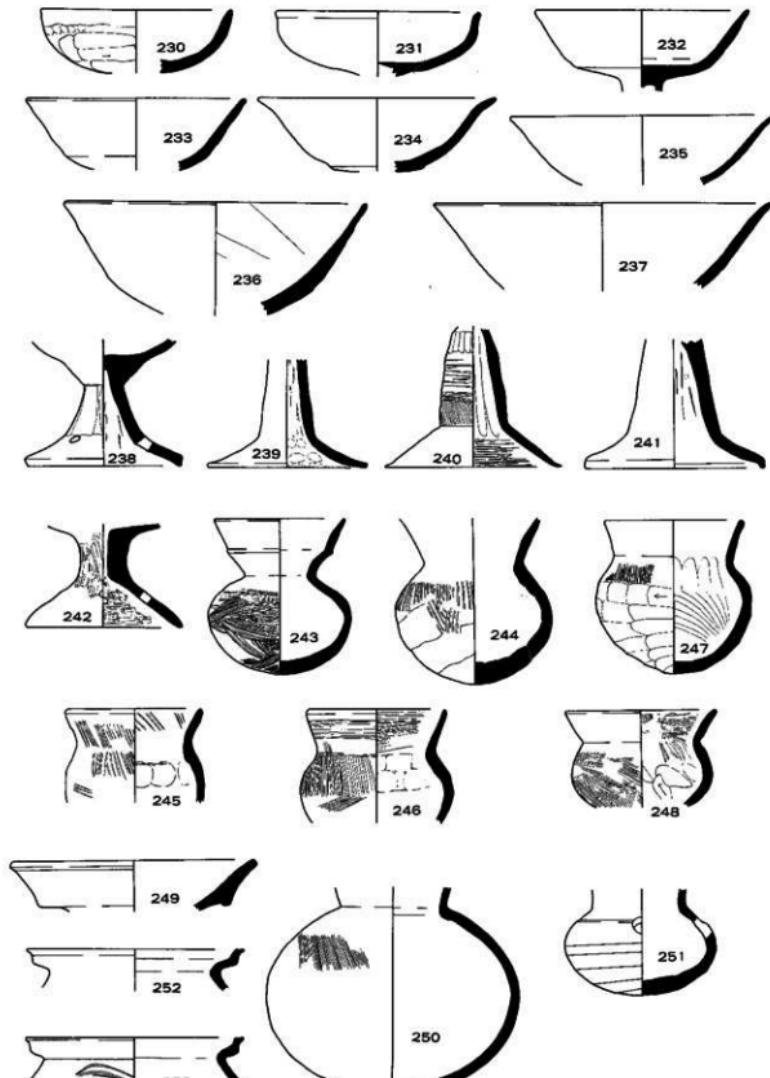


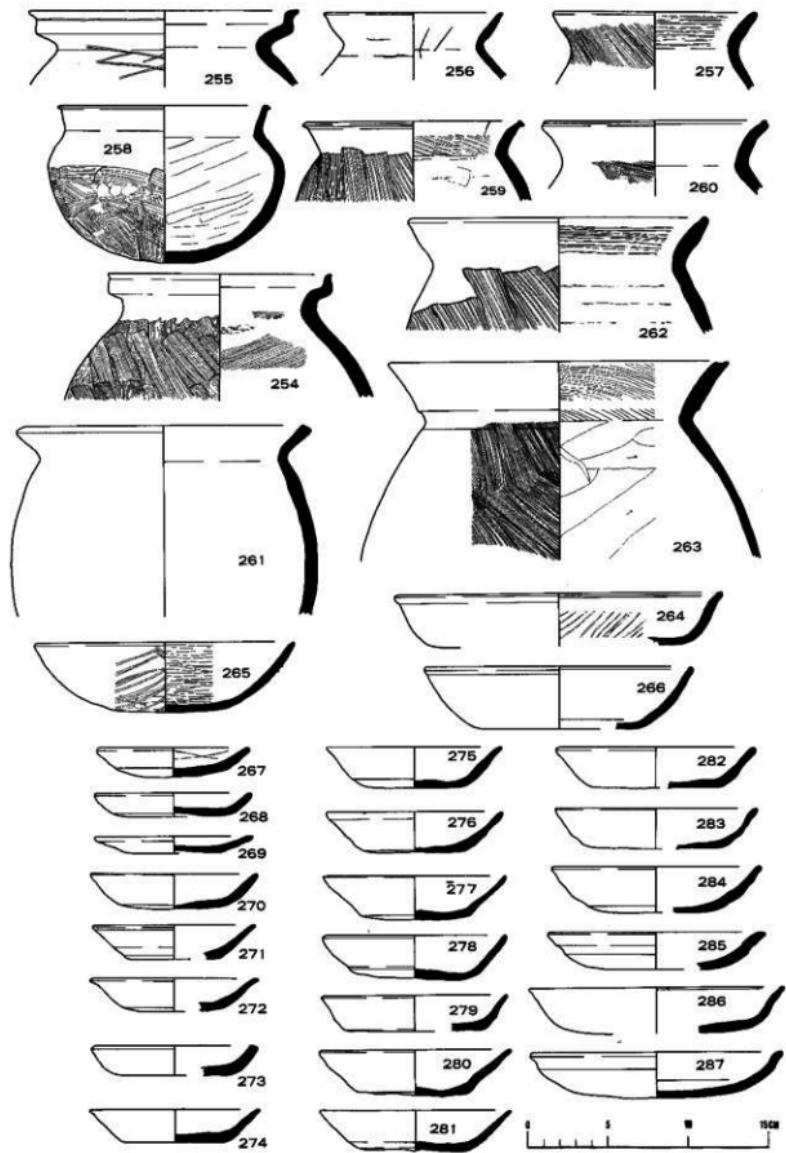
B II トレンチ出土遺物

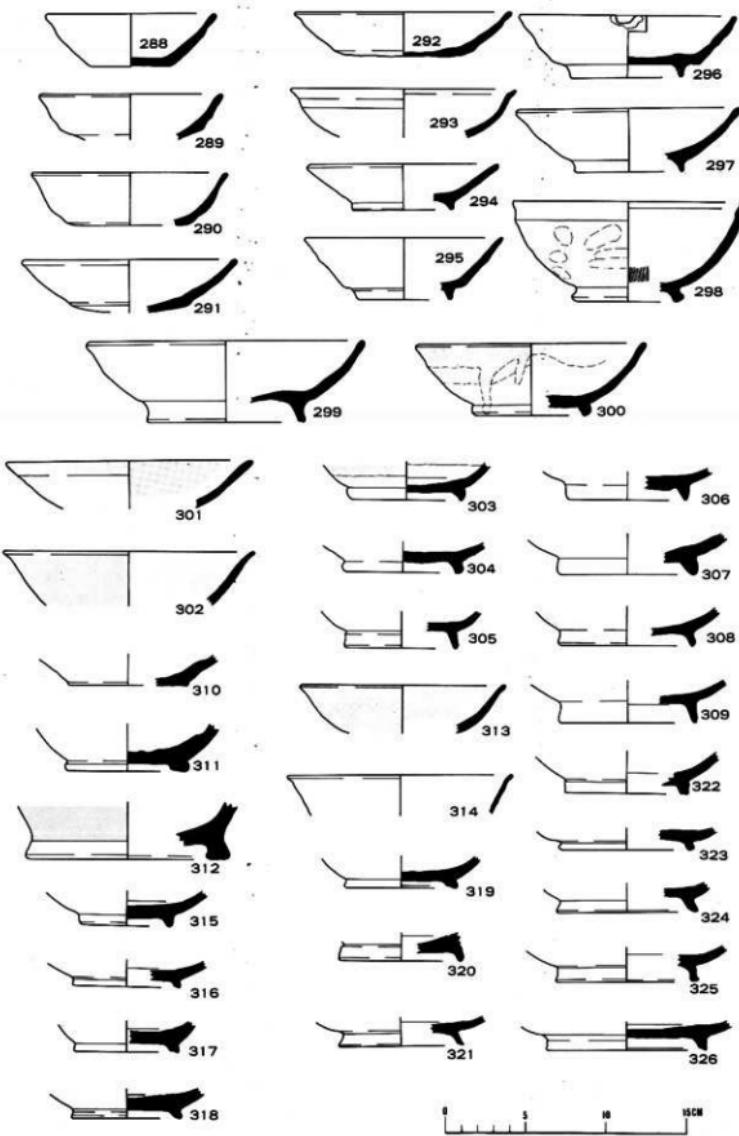


B II トレンチ出土遺物









B III トレンチ出土遺物

昭和61年3月  
草津川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報  
—御倉・北萱地区—

編集・発行

滋賀県教育委員会文化部文化財保護課

大津市京町四丁目1-1 TEL(0775)24-1121

財団法人滋賀県文化財保護協会

大津市瀬田南大萱町1732-2 TEL(0775)48-9780

印刷・製本

宮川印刷株式会社

大津市富士見台3番18号 TEL(0775)33-1241